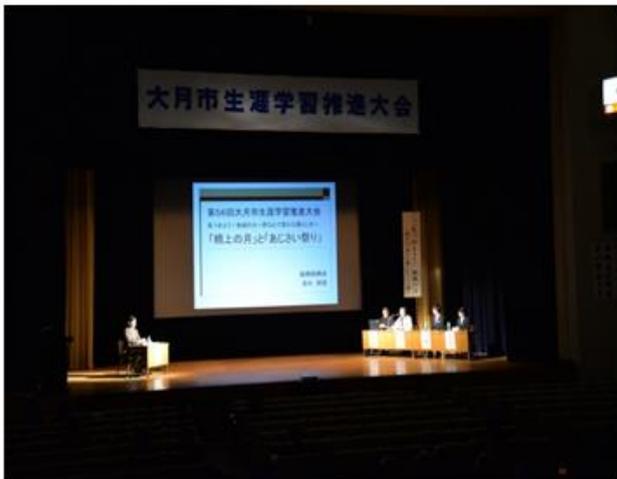


第56回 大月市生涯学習推進大会 報告書

日時 平成30年3月4日（日）於
会場 大月市中央公民館（市民会館）大ホール

【見つめよう！ 地域のか】 ～粹な心で豊かな暮らしをパートⅢ～



まちづくり
ひとづくり



いつでも、どこでも、だれでも学べる
大月市教育委員会



第56回大月市生涯学習推進大会 実施要項

1. 大会テーマ 【見つめよう！地域の力 ～粋な心で豊かな暮らしをパートⅢ～】

2. 大会趣旨

各地区が潜在的に持っている「地域の力」を見つめ直し、発掘することで、地域の活性化、生きがいの醸成、世代間の交流等を目指すと共に、若い世代から見た大月の魅力、課題等を検証することに加え、地域づくりの拠点としての公民館の役割と今後の展望を勘案しつつ、粋な心で豊かな暮らしのある地域力の実現を目指すことを大会趣旨といたします。

3. 主 催 大月市教育委員会・大月市社会教育委員会・大月市公民館連絡協議会

4. 日 時 平成30年3月4日（日）午後1時 開会

5. 会 場 大月市中央公民館（市民会館）大ホール

6. シンポジウム（第1部：パネリスト発表 第2部：会場との対話「意見・情報交換」等）

生涯学習の実践と成果の活用、学習に踏み出すための情報の提供や交換から生涯学習への意欲を高める。

○コーディネーター

大月市立大月短期大学准教授

榎平 龍宏 氏

○パネリスト

- ・清水 明愛 氏（猿橋保勝会）
- ・寺島 春樹 氏（大月市役所秘書広報課）
- ・高田 侑依 氏（大月短大一年生・榎平ゼミ）

7. その他

- ・展示等 社会教育関係団体の紹介及び出店（1階 ロビー）
各地区公民館・各社会教育団体の実施事業写真展（1階 ギャラリー）
中央公民館利用団体作品展（2階 市民ギャラリー）
- ・アトラクション
猿橋小学校音楽お琴クラブによる琴の演奏

8. 時間設定	出 店	12:00～
	受付・開場	12:30～
	開会行事	13:00～13:20
	アトラクション	13:20～13:40
	シンポジウム	13:50～15:40
	閉 会	～15:50



シンポジウム “さあ☆始めてみよう！”

各地区が潜在的に持っている「地域の力」を見つめ直し、発掘することで、地域の活性化、生きがいの醸成、世代間の交流等を目指すと共に、若い世代から見た大月の魅力、課題等を検証することに加え、地域づくりの拠点としての公民館の役割と今後の展望を勘案しつつ、粹な心で豊かな暮らしのある地域力の実現を目指すことを大会趣旨といたします。

★ コーディネーター



まさだいら たつひろ
榎平 龍宏氏

大月市立大月短期大学准教授

長野県生まれ。専門は農業経済学、地域経済論、経済政策。最終学歴は東京大学大学院農学生命科学研究科農業・資源経済学専攻博士課程単位取得。財団法人農政調査委員会調査研究部主任研究員、名古屋経済大学准教授、同大学院教授を経て、2017年より現職。高崎経済大学、中央大学、近畿大学、名古屋経済大学の非常勤講師を歴任。現在、耕作放棄地解消・発生防止表彰事業審査委員(全国農業会議所・農林水産省)、農業振興地域整備推進協議会会長(愛知県犬山市)、農地中間管理事業評価委員(愛知県)、日本農業経済学会理事等を務める。主な研究業績として「都市・農村格差拡大の進行と農村地域経済振興」(生源寺眞一編著『改革時代の農業政策—最近の政策研究レビュー』2009年、農林統計出版)、「地域再生の理論と農山漁村」(小田切徳美編著『農山村再生に挑む—理論から実践まで—』2013年、岩波書店)等がある。現在は、地域経済循環、農商工連携、地域経済政策、地域経済振興・活性化に関する理論的・実証的研究を行っている。趣味は水泳、アウトドアスポーツ、海釣り。

★ パネリスト



しみず あきよし
清水 明愛氏

猿橋保勝会 『「橋上の月」と「あじさい祭り」』

少年の頃、それは当たり前町の真ん中にどーんと構えていました。その猿橋は景観を含め国の名勝地として指定されていることさえ、当たり前でした。以前、猿橋保勝会という会が存在したらしく、多くの町民をはじめ、粋でいなせな青年達、この町の賑わいを『日本三奇橋』と『名勝猿橋の風景・情景』を次世代にと、それこそ当たり前活動し楽しんでいました。その歴史ある会、猿橋保勝会が復活し、祭り保存会、観光協会、周辺地域活性化委員会と、(ほぼメンバーは同じ)ここ10数年、祭りなどのイベントで町を元気にしようと活動しています。私もその一員として頑張っていると思っています。そして、私達がこの町で楽しく生きていく事で、この町を好きになって頂ければ幸いです。尚、猿橋中学校の生徒さん達には愛機作業(清掃等)を永年にわたり行って頂き感謝いたします。『出世大神宮の稚児行列』『山王宮祭の神輿』振り返れば、『子供歌舞伎』がきっかけで、子供達との新たな接点生まれ、『橋上の月』『あじさい祭り』等に多くの子供達・学生が参加してもらえようになりました。その中から後継者が一人でも多く現れる事を願っています。

★ パネリスト 大月市役所 秘書広報課



てらしま はるき
寺島 春樹氏

『短大と地域～人と人とのつながり～』

私は長野県出身であり、長野県の高校を卒業して大月短期大学に入学しました。一度、地元の信州大学に編入学し、就職を機に大月に戻ってまいりました。現在は大月市役所総務部秘書広報課人事担当に配属され、日々、行政に携わらせて頂いております。本日は私の経験を踏まえた上で、大月市を就職先に選んだ理由や感じていることなどを、今回のテーマにある「見つめよう！ 地域のカ～粋な心で豊かな暮らしを～」に結び付けられるようなお話ができればよいと思います。そして、私の話でみなさんにも何かしら感じて頂ければ幸いです。

★ パネリスト 大月市立大月短期大学 榎平ゼミ



たかだ ゆい
高田 侑依氏

『公民館はできる』

2017年3月、福島県の高校を卒業、同年大月短期大学に入学しました。私が小学6年生の時、東日本大震災を経験しました。その後、原発事故が発生し、福島県は風評被害という二次災害に見舞われ、各種産業が打撃を受け、現在も元に戻っていません。この状況に経済学を学ぶ私達に何かできないか？個人の力は微々たるものだとしても行動をしないと何も生まれません。まず、“やってみる”という行動理念で、多方面から話をいただき日本の“十八番”である団結力をパワーアップするジャンプ台の如く、大月市から全国へ！更には世界へ発信し、地方の活性化モデルを構築できればと考えています。

第 56 回大月市生涯学習推進大会 シンポジウム記録

■ 趣旨説明 【大月市社会教育委員 安藤 睦美】

ここで、シンポジウムの開始に先立ちまして、大会の経緯と趣旨について、簡単にご説明いたします。

はじめに経緯についてでございますが、今大会は5回に渡る社会教育委員の会議において、大会テーマや内容を決めて参りました。会議では、各委員から提案された大会内容案を関連する課題ごとにまとめ、それぞれの提案について、社会教育との結び付きを考えながら検討を重ね、今大会のテーマ「見つめよう！地域の力」～粋な心で豊かな暮らしをパートⅢ～及び内容が決定いたしました。

続いて、大会趣旨についてでございますが、各地区が潜在的に持っている「地域の力」を見つめ直し、発掘することで、地域の活性化、生きがいの醸成、世代間の交流等を目指すと共に、若い世代から見た大月の魅力、課題等を検証することに加え、地域づくりの拠点としての公民館の役割と今後の展望を勘案しつつ、粋な心で豊かな暮らしのある地域力の実現を目指すことを大会趣旨といたします。



■ シンポジウム開始

【榎平コーディネーター】

皆さん、初めまして、こんにちは。ご紹介に預かりました大月短期大学の榎平と申します。年度末のお忙しいところ、足を運んで頂きありがとうございます。こんなに天気の良い日です、ね、こんな薄暗い所にお運び頂きありがとうございます。これは決して皮肉ではございませんでして、私は農業経済学を勉強しているんですけども、以前農家さんからこんなお話を聞いたんですね。農業の成果っていうのはどのようにすれば上がるんですかってお聞きした

んです。その農家さんがお話しした言葉が胸に残ってしまっていて、成果を上げるには一つは、いいものを作ろうという思いの強さ、もう一つは技術や市場といった知識だということでした。そして、それらを活かしてどう行動するか。この三つの掛け算、思いの強さ、知識、行動の三つであり、どれかがゼロでも掛け算なのでゼロになってしまう、ということでした。それぞれを伸ばしていけば2倍になり、3倍になるというこれが農業の成果を上げる秘訣なんだとおっしゃっていました。これってどんなところにも言えることなんじゃないかって思ったんですね。例えばこの地域づくりって事についても同じだと思います。この三つがなければ魅力がある地域って作っていけないんだと思います。このお忙しい年度末に参加なされた皆



さんはこれからの大月の事を思い、地域を良くしていこうという思いの強さを持っていると思います。そして、知識なんですけど、ぜひ、ここで得られるものは得てほしいと思ってます。ただ、壇上にいる4人だけの知識では皆さんに有益なものは全てお与えできないというのは分かっています。ぜひ、これから司会をしていく中で、皆さんから思い、感じている事を積極的にお出し頂いてほしいと思っています。そうするとここは知識としてより大きくなると思います。そして最後の行動ですが、ここで学んだことをぜひ、それぞれの地域に持ち帰って、自分達の地域に合わせて行動して頂きたいと思います。この三つを上手く結びつけながら、この大月という町をより魅力のある町にしていくのにこのシンポジウムがきっかけになれば非常に大きな成果になると思います。また、後でご紹介しますがこの大月という地域が生きがいを持ち居場所があって誇りのある地域にするにはどうしたらいいか、そしてその次を担う、先ほどお琴を熱心に演奏してくれた子供達などの次世代に地域を担ってってもらえるような、そういう形をどう作っていったらいいかを皆様方と一緒に考えていければいいかと思っています。それでは早速ですけどもパネリストの方々からご報告をお願いしたいと思います。顔ぶれをご覧頂ければ分かると思いますが、非常に魅力的な顔ぶれです。それでは最初の清水様からのご報告ですけども、猿橋と聞けば全国の人でも聞いたことがある程の名勝ですけども、その猿橋を擁する地域です。まあ、猿橋だから出来るんじゃないか、猿橋とうちの地域は違うと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、猿橋地区でもこういった賑わいをつくっていくためには猿橋だけではできなかったという、そういったお話をお聞かせ頂けるとと思います。それでは清水さん、よろしくお願い致します。



■ 第1部 パネリスト発表

【パネリスト 清水 明愛 氏 (猿橋保勝会)】

皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介に預かりました猿橋保勝会の清水です。こんなにたくさんの諸先輩方のお話をすることは緊張の極みです。先ほど、舞台袖で掌に文字を書き、飲み込んでみるという古典的なおまじないをしたんですけど思わずその文字は「人」ではなく商売柄「酒」と書いてしまいました。微妙な笑い、ありがとうございます。まず猿橋とは、という問題です。猿橋(えんきょう)とは地域全体を指します。今日は使っていきます。こだわりの先輩の言葉です。

それでは本題に入らせていただきます。3月を迎え、猿橋の町民の中には、冬眠から目覚めたように、また、春の日差しを感じ芽吹いたり、今では死語となったほけきやる人々が増えてくるのです。まず、4月は春を愉しむ会、メインとなりますのが出世大神宮の祭典。ちんどん東屋さんを先頭に、猿橋小学校新一年生の稚児行列、そして、稚児が綱引く山車、そのうえでのお囃子、また、消防団員が中心となった仮装行列が町内を賑やかに巡行します。多くの露店も出店し、町最大のお祭りです。その年生まれた新生児が家族揃って、その子の将来に夢を託してお宮に参拝します。かつては七保入りの機屋のはたが止まったと聞いたことがあります。続いて5月は橋上の月・猿橋観月会、そして6月はアジサイ祭りとなります。この二つのイベントについては、後ほど改めてお話しします。7月は猿橋のたもとのお神輿祭りが行われます。若者を主体とし、新生児が奉納した提灯を祀った大中の神輿、加えて各町内からの子供神輿6基、合わせて7基の神輿がお祓いを受けたのち橋を渡御します。8月はかがり火市民祭りへの参加、盆踊りと続きます。9月は氏神様の諏訪春日神社のお祭りです。猿橋幼稚園児の灯籠絵を毎年張り替え、そして切り絵行燈のゆれる灯りの中で行われる神社奉納の民謡踊りが行く夏を欲しむかのように夕暮れから行われます。秋には十五夜、十三夜、町民体育まつり、七五三になります。また、新たに始まった町民修学旅行は、第1回は碓氷峠に行き、アプトの道を散策、猿橋にも残る旧国鉄廃線のトンネル活用を皆で考えようと企画しました。そして、昨年第2回は善光寺・小布施に出向き、葛飾北斎が描いた猿橋を鑑賞してきました。北斎が猿橋を訪れていた事を知る人は少なく、改めて郷土を見つめ直す良い機会になったようです。年末は除夜の鐘をつき、新年初詣とどンドン焼きとなりますが、その他にもそれぞれ各地域の神社やお稲荷さんなどが守り伝えられています。

いろいろと関わっている中で『人との出会い』『共に行動する

第56回大月市生涯学習推進大会

見つめよう！地域のカ～絆な心で豊かな暮らしを～

「橋上の月」と「あじさい祭り」

猿橋保勝会
清水 明愛

4月 出世大神宮例大祭



7月 山王宮例大祭



猿橋を渡る神輿



8月 盆踊り・かがり火市民祭り



かがり火市民祭りへの参加

9月 諏訪春日神社例大祭



民謡流し



幼稚園児の燈籠

仲間』『次世代への思い』などは、多くの課題なのかもしれませんが、とにかく参加し、やり続けることで価値を見出すことができ、現在も町の行事がワイワイ、ガヤガヤと継続しているような気がします。長い歴史の中で私達の知りえないところで、残されるべきものが残り、今日があると思います。そのことは、これからも繰り返されると信じています。

それでは『橋上の月』『アジサイ祭り』についてお話しします。5月、橋上の月、観月会。猿橋の溪谷は、桂川の清流から初夏を思わせるさわやかな風が吹き上り、若葉が揺れ、そんな中、猿橋を舞台に繰り広げられるパフォーマンスが渾然一体となって聞者、見る者の心を揺さぶります。この催しは最初の頃、いろんな意見がありました。それでも、よそ者の

気づきから始まった橋上の月は、いつの間にか16回を数えるまでになりました。お神輿や踊りの「動」のお祭りに対して、「静」のイベント、夕闇が迫る頃、橋の上に浮かぶ月を眺めながら、猿橋の持つ幽玄の美を味わおう、浮世絵の巨匠、歌川広重が描いた、名画『甲陽猿橋の図』。この風景を皆で見たい、そのような思いの中から始まったイベントです。これには毎年近隣で活動なさっている様々な個人、団体が私達の声掛けに快く協力してくれています。毎回イベントでは、紅富士太鼓の豪快な演奏で月を呼び出し、会は始まります。先ほどアトラクションで演奏してくれました猿橋小のお琴クラブも橋の上に十数台のお琴を並べ、可愛らしい演奏を披露してくれます。その姿は毎年お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんの構えるカメラの絶好の被写体です。また、「橋・月」にちなんだ俳句コンクールには地元の小中高生をはじめ、全国津々浦々から毎回五千句あまりの俳句が寄せられ、その選考をしてくださる大月市俳句連盟の皆様には大変なご苦勞をかけています。この場をお借りしてお礼申し上げます。それから、

その他の行事

- 10月 町民体育まつり
- 11月 七五三・町民修学旅行
- 12月 除夜の鐘つき・新年初詣

橋上の月 ～子ども歌舞伎～



橋上の月 ～紅富士太鼓～



橋上の月 ～猿橋小お琴クラブ～



橋上の月 ～俳句コンクール～



橋上の月 ～笹子追分人形芝居～



橋上の月 ～都留高書道パフォーマンス～



猿橋幼稚園の先生方による絵本の読み聞かせ、リコーダーアンサンブル、親子によるキーボードとサクソ、笹子追分人形の浄瑠璃も今では欠くことのできない演目です。都留高校書道部による書道パフォーマンス、これは皆様にも本日お帰りの際に1階ロビーで見て頂けると思います。高校生といえば都留興譲館高校、上野原高校各弓道部による橋の上を弓矢が渡る矢渡しと名打った弓道の勇壮な試技は人気の催しです。また、猿橋中学校の合唱も際立ちます。特に校歌斉唱の折には在校生と共に老いも若きも、声高らかに歌う姿には、世代を越えた一体感が広場いっぱいにあふれ、ある種の感動に胸がつまり、目頭を熱くする方も少なくはないはずです。イベントの最後には、この日特別に真っ赤な毛氈を敷き詰めた橋を素足で渡り、東の高い空に浮かぶ月を出演者、参加者ともに愛でて幕を下ろします。その際、百円で橋渡り記念札を購入して頂きます。その浄財は猿橋中学校の愛橋作業の活動費としてお届けしています。なお、消防団をはじめ町内の皆様には、準備及び後片付け等のご協力には大変感謝しております。

次に6月下旬に行われます『アジサイ祭り』は、現在のような形のイベントが始まって、すでに18回を数えます。実のところ、このイベントの始まりは、はっきりとしないところがあります。猿橋近隣公園は20年ほど前にできました。隣接する桂川の河原は乙女河原と呼ばれ、古くから町民の方々に親しまれてきました。夏はたくさんの釣り人がアユの解禁日の前夜から集まり、いくつもの焚火を囲んで夜が明けるのを待ち望んだものでした。現在でも川は両岸とも釣竿でひしめき合い、釣り人の人気は絶えません。この川を名勝猿橋とともに観光のメッカにしようとする動きは昭和20年代、特に昭和26年の猿橋架け替え事業の頃から起きていたようです。橋の下に鎮座する『まわりぶち』と呼ばれる岩場には展望台が築かれ、南側に広がる柱状節理の崖沿いには三十を超えるバンガローが建てられていました。猿橋の橋のたもとには、旅館、映画館、カフェに料亭、川には屋形船が浮かび、芸者さんたちと興にふけるといった大人の遊びもあったようです。この猿橋を起点に観光事業を興そうという雰囲気は町全体にあふれていたようです。さて、今のアジサイ祭りの形が完成したのは、平成5年皇太子浩宮様のご成婚があり、全国的にお祝いの気運が高まり、記念植樹が行われました。猿橋もその例外ではなく、多くのアジサイの苗が植えられました。公園中央には芝生広場が整備され、市民の皆さんの憩いのシンボルになっていました。芝生が陽の光に輝き、中央に立つ櫓の葉が緑に茂る夏の頃、アジサイ祭りは始まりました。広場には手造りのステージをしつらえ、アマチュアやプロ歌手のコンサート、時には都内の路上で演奏するストリートミュージシャン。また、石垣島出身でその時既にクレヨン

橋上の月 ～矢渡し～



橋上の月 ～猿橋中学校生徒の合唱～



あじさい祭り ～公園からの遊歩道～



あじさい祭り ～春の猿橋近隣公園～



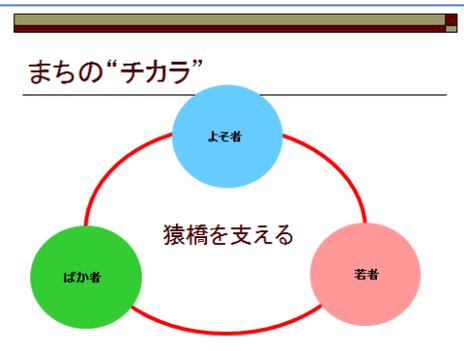
あじさい祭り ～フォークダンス～



しんちゃんの主題歌でデビューを果たしていた少女デュオにもステージに立ってもらいました。木陰では茶の湯の接待、猿橋小お琴クラブの演奏、広場では少林寺拳法の演武、フォークダンス同好会の観る者が心配になるほどの熱心な演技、ハワイアンバンドの生演奏をバックに妖しい腰つきのフラダンス、猿橋幼稚園児による可愛いお遊戯。広場を囲むたくさんのケータリングの屋台、飲食に限らず手作りのアクセサリや古着を販売する人々のフリーマーケット。また、満開のアジサイの中では浴衣姿のお嬢さん方をモデルに撮影会も行われました。このイベントの特徴は町民の皆さんが観客であり出演者であり、同時に主役だったという事です。かつてここを訪れた方が「鎌倉のアジサイ寺よりきれいだね」と話してくれました。たとえお世辞だとしても何か誇らしいものを感じたのは私だけではないはずです。毎日のようにアジサイの手入れをしてくれている諸先輩方、シーズン最終の剪定作業と、これからも町民が手を携えて花を咲かせていくことでしょう。猿橋では歴史ある寺社の祭典や行政などが主催する催しに比べ、このような町民ベースのイベントがなぜ今日まで続けてこられたのでしょうか？その答えはイベントを興し実施している本人達にも、実ははっきりしないのです。



ちなみにアジサイの花言葉は「移り気・浮気者」だそうです。思うに猿橋のイベントを支えているのは浮気者たちではなく「よそ者」「ばか者」「若者」だと思っています。まず、「よそ者」とは、この言葉の意図するところは第三者の眼をもっている者です。新しい考え方、やり方、新鮮であっても古臭くても色々な角度や方向から物事を見たり、聞いたり、感じる事ができるような感性が変化や進化として現れると思います。次の「ばか者」とは難しい計算をしない、ホントはできない、打算がない、損得を考える前に思いついたら、面白そうだからやっちゃえ、そんな感じで事が進んでしまう、町の皆が喜んでくれる、皆が笑顔で集える事、そのうえで何より自分が楽しむ事が重要だと感じています。そして近年かがり火祭りに登場する猿橋の山車。これはある八王子の方が永年自宅大切に保管していたもの、戦後間もない頃、猿橋には八王子流の山車があったことを知り、是非この山車を活用してもらいたいとお話がきました。購入にあたっては本当に悩みました。買った後の活用は可能なのか？保管方法は？維持管理は？もっともな話



です。町では幾度となく区会での話し合いが行われ、また、町内各所で説明会を開き、大多数の町民の賛同を経て購入を決定されました。そして町民有志がお囃子の会を結成、国の補助金を受けて、楽器の購入や山車の展示庫を建設するなどして、見事、山車は復活いたしました。この一連の取り組みは、費用対効果を計算するわけでもなく、千載一遇の機会を逃してはならないと無我夢中の活動でした。今ではこの山車は猿橋のお祭り、イベントの新たなシンボルとまできています。最後に三つ目の「若者」ですが、日本中どこを見ても大都市部以外はどこも人口そのもの

まちの“チカラ”
よそ者とは・・・
猿橋の皆さんが多くの方の多くの意見に耳を傾ける度量を持っていること。
新参者と呼ばれる人の意見にもきちんと向き合う器の大きさがあること

まちの“チカラ”
ばか者とは・・・
猿橋には、損とか得とかを考える前に思いついたら何でもやっちゃえといった勢いがある人間が多いということ。

まちの“チカラ”
若者とは・・・
猿橋には、年齢に関係なく、身体の続く限り、熱いハートをいつまでも持ち続けること、それこそが何より大切なことと信じて活動してきたたくさんの人がいること。

維持管理は？もっともな話です。町では幾度となく区会での話し合いが行われ、また、町内各所で説明会を開き、大多数の町民の賛同を経て購入を決定されました。そして町民有志がお囃子の会を結成、国の補助金を受けて、楽器の購入や山車の展示庫を建設するなどして、見事、山車は復活いたしました。この一連の取り組みは、費用対効果を計算するわけでもなく、千載一遇の機会を逃してはならないと無我夢中の活動でした。今ではこの山車は猿橋のお祭り、イベントの新たなシンボルとまできています。最後に三つ目の「若者」ですが、日本中どこを見ても大都市部以外はどこも人口そのもの

最後に三つ目の「若者」ですが、日本中どこを見ても大都市部以外はどこも人口そのもの

が減少し、しかも猛烈な勢いで高齢化は進んでいます。若い人がいない、子供が少ないと悔やんでも仕方がないこと、大切なのは若者がいない、年寄りばかりという物理的なものではありません。私達の身体が続く限り、熱い思いをいつまでも持ち続ける事、これこそが何より大切な事と信じて活動してきました。私達の言う「若者」は、決して年齢が若いことではありません。たくさんの経験を積んできた年配者も、地域の一員としてその役割を担ってもらいたい、またそうあるべき若者と考えます。次世代へのつながりは、若者だけでも年寄りだけでも不可能です。できない理由、やらない理由、言い訳なら百でも二百でも後から付けられます。やらない後悔からは何も生まれません。失敗しての後悔なら、次に引き継ぐ肥やしとなるのです。私達の中では、こんな禁句があります。「去年と同じにやればいいよ。」これは明らかに自らの可能性の否定、進化の否定に他ならないのです。この発想が口から出た時、まさに終わりの始まりが始まったと考えます。常に前向きに楽しい事、面白い事を探し続ける事、それが私達のやり方です。

ここに皆さんに紹介したい一遍の詩があります。お聞きください。

(『青春』 サムエル・ウルマン作)

青春とは 真の青春とは

若き肉体の中にあるのではなく 若き精神のなかにこそある

とことん湧き出る 泉のように

あなたの精神は 今日も新鮮だろうか いきいきしているだろうか

臆病な精神の中に 青春はない

ほほえみを 大いなる愛の為に発揮される

勇気と冒険心のなかにこそ 青春は ある

臆病な二十歳がいる すでにして 老人

勇気ある六十歳がいる 青春のまっただなか

歳を重ねただけでは 人は老いない

夢を失ったときに はじめて老いる

勇気と希望 ほほえみを忘れず

命のメッセージを 受信しつづけるかぎり

あなたはいつでも青春

青春とは 真の青春とは

若い肉体のなかにあるのではなく

若き精神のなかにこそ ある

結びに

人は信念と共に若く 疑惑と共に老ゆる

人は自信と共に若く 恐怖と共に老ゆる

希望ある限り若く 失望と共に老い朽ちる

猿橋の傍らには「見ざる(猿)、言わざる(猿)、聞かざる(猿)」の塔があります。私達はいいい意味での付度をして、これからいきます。まだまだ私達はこれからいろいろな人達から学び続けます。

以上で私達の報告を終わります。ご清聴ありがとうございました。

まちの“チカラ”

私たちにはこんな禁句があります。

「去年と同じにやればいいよ」
これは明らかに自らの可能性の否定、進化の否定
です。

この発想が口から出たとき、まさに「終わりの始まりが
始まった」と考えています。

常に前向きに、楽しいこと面白いこと探し続けること。

それが私たちのやり方です。

【槇平コーディネーター】

清水さん、ありがとうございます。皆さん、いろいろお聞きしたいことがあるかと思いますが、後でその時間を設けますのでその時にご発言頂きたいと思います。私からは確認だけさせていただきます。今のお話をお聞きしますと、猿橋といえば観光というイメージを持たれるわけですが、決して猿橋という資源だけに頼りきっているわけではなく、それを活かしながら次から次へと新しい取り組みを生み出していくという努力をここまで続けているというお話でした。その原動力が自分達が楽しめる、その場作りなんだというお話ですね。フォークダンスであり、フラダンスであり、みんなで楽しんでいる取り組みを発表する場である。それを見た外から来た人が声を掛ける。それを感じて誇りにもてる。そういうものとして観光を捉えていくことが、長続きしていく秘訣なのかなと思いました。それを続けていく三要素として「よそ者」「ばか者」「若者」というのがありました。これもよく言われる話なんですけど、後で具体的にお聞きしたいと思います。一点だけご質問なんですけど、「若者」というのは地域に根付いてくれないとのことで、肝心なのは私達の心の持ちようなんだよというお話、これは非常にきれいなんですけど現実的に数十年後を考えると嫌になってしまうということが物理的な事実であります。と考えると実は今のお話の中でも幼稚園、小学生、中学生、高校生が猿橋のイベントと繋がっているということが次世代を担う方達に地域に愛着を持ってもらうということで大事ということですが、具体的に学校との繋がりがってどういう風に作ってこられたのでしょうか。

【パネリスト 清水 氏】

特に考えていることはないんです。一生懸命楽しくやっている姿を見てくれて、例えば橋上の月の弓矢を見て、高校に行って弓道を始めましたとか、一般の人達が俳句を応募してくれたりだとか、知らない所で交通整理をしてくれてたりだとか、私達がやっていることがごく自然にこう町の中に広がっていくということがここ何年かで感じて、ありがたく思っています。



【槇平コーディネーター】

楽しんでいる姿を見ているということですね。はい、ありがとうございます。後ほど、ご質問等は受けたいと思います。

続いての報告ですけれども、大月市役所に今年入所したという、そういう若手からの報告をお願いしたいと思います。先ほどの地域おこしの三要素からいくと「若者」でもありますし、ただし、彼は「よそ者」でもあります。そして、長野県出身で短大を卒業し、編入学してあえて大月に戻ってきたという、外から見ると「ばか者」なのかなあと思うんです。三要素を立体的に楽しめているのが彼だと思います。それでは大月市役所の寺島さん、よろしくお願ひ致します。

【パネリスト 寺島 春樹 氏（大月市役所秘書広報課）】

皆さん、こんにちは。私は、今年度、大月市役所総務部秘書広報課人事担当に採用されました寺島春樹と申します。本日は生涯学習推進大会でパネリストとして出席させて頂き、誠に光栄に思います。

先ほどのご紹介にもありましたが、私は、長野県出身であり、長野県の高校を卒業して大月短期大学に入学しました。短大卒業後は、地元の信州大学に編入学をし、就職を機に大月市に戻ってまいりました。

始めに本日の目的を説明いたします。話す目的としましては、魅力ある大月市にするにはどうすれば良いかをこの場をお借りして皆様と共に考えることです。先に私の考えを話しますと、大月短大生と地域をより結びつけることが必要だと考えています。

そして、私の経験を踏まえた上で、大月市を就職先に理由や、感じていることなどを、今回のテーマにある「見つめよう！地域の力～粋な心で豊かな暮らしを～」に結び付けられるようなお話ができれば良いかと思えます。

私が大月市に戻ってこようと思った理由は、短大在学中に人と人との繋がりを感じ、愛着を持たせたからです。私の中で、愛着とは地域のために何か貢献したいと思える気持ちです。しかし、これは住めば誰でも思うことではありません。ここで大事な点は、地域と関わる時間を作る何かがあるかどうかだと私は考えます。

それが、大月短期大学です。私にとって、愛着を持たせたきっかけは、地域の活動に参加したことで、大月市を知る機会があったことだと思います。私は、高校まで地域で活動した経験はほとんどなく、自主的に参加したことはありませんでした。しかし、短大に入学してから、大月学入門や地域自習という講義を通じて、自然と地域に関わる機会が振り替えるといくつもあったことに気づかされました。それらの経験を通じて、普段は関わることのない異なった経歴を持つ人達に出会うことができました。自分と違う考えを持った人との繋がりを築くと、価値観が豊かになり、地域の人と繋がりを築くことに魅力を感じました。気づけば地域の方々とお話をする時間が毎週の楽しみになり、講義の内容以上に得るものがあったと思います。

しかし、私が魅力を感じたように若い人が大月市に魅力を感じているのでしょうか。日本創生会議の中で、2010年から30年間の20～39歳の女性人口の予想減少

第56回大月市生涯学習推進大会
見つめよう！地域の力～粋な心で豊かな暮らしをパートⅢ～

**大月短大生の学生と
地域の繋がり**

平成30年3月4日(日)
大月市役所 総務部 秘書広報課
人事担当 寺島 春樹

自己紹介

出身・・・長野県安曇野市

平成25年3月 長野県の高校を卒業
同年4月 大月短期大学に入学
平成27年4月 信州大学法学科に編入学

平成29年4月 大月市役所1年目

本日の目的

大月市を魅力的にするにはどうするか？

↓

短大生と地域の人が繋がることで
より魅力的な大月になる

大月に戻った理由

短大在学中に、人と人の繋がりを
感じ、**愛着**を持たせたため

愛着とは「大月に貢献したい気持ち」

大月に戻った理由

地域と関わることができる **何かがある**

大月短期大学

大月市の現状

2010年から30年間の
20～39歳の女性人口の
予想減少率

大月市 71.4%
山梨県内減少率4位

日本創生会議・人口減少問題検討分科会

率が出されました。大月市はどれくらいでしょうか。また、県内では何番くらいでしょうか。大月市は71, 4%で県内でも4番目に高い割合です。ちなみに、市では一番高い割合となっています。この結果から、残念ながら大月市は若い人が魅力を持っていないというのが現状ではないでしょうか。

つまり、住んでいる人が大月の魅力を自覚していないと思います。しかし、その一方で私のように地域の中でさまざまな出会いを通じて魅力に思える大月もあります。このギャップを埋めていくことが必要ではないかと思っています。そのために、私は、市外出身者が多い大月短期大学の学生と地域が繋がることが大切ではないかと考えています。

そこで、改めてお伺いします。みなさんは大月短期大学をどのような印象を持っていますでしょうか。あまり関心がなかったり、何をしているかわからない方もいらっしゃるのではないのでしょうか。試しに短大生の名前を3人以上挙げるができる人はいますでしょうか？(少なかったり、いないのではないかな。)しかし、短大生と関わりたい方も多いのではないのでしょうか。

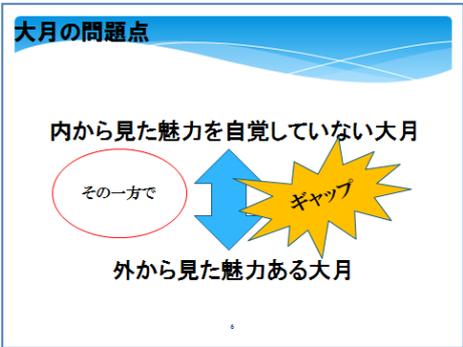
ここで、全国にある公立短期大学と大月短期大学の比較を改めてさせて頂きたいと思います。大月市の人口規模は約2万5千人ですが、他の市の人口規模はどうでしょうか。

ご覧のとおり、他の公立短大を有する市は中核市や大きな市が目立ちます。大月市の人口規模で公立の短大を有しているのは、大きな特徴だと思います。

また、次のデータをご覧ください。市外、県外出身の短大生の中で、大月市に就職した人は何人いるのでしょうか。平成28年は0人です。過去にも数人しかおりません。これを踏まえれば、短大という強みを活かしてきていないと言わざるを得ないのではないのでしょうか。

そのため、皆様には大月短期大学の価値を鑑みて、大月市にとっての強みであり、魅力ある町づくりに欠かせないものと捉えて頂きたいと思います。このことから、短大生と地域を結びつけ、協働でまちづくりを行う必要性があります。では、実際に大月短大と地域を結びつける大月学入門や地域自習といった講義がありますが、どのようなことをしているかを皆様はご存じでしょうか。

まず、大月学入門とは、一年次に大月市について学ぶ基礎科目です。大月市を活動拠点とするリーダーをゲストスピーカーとして招き、具体的な地域活動の実態を学ぶものです。地域における農業・工業・商業・観光・福祉といった各分野において、経済的な側面に加えて、文化・歴史・環境といった多様な要素



地域と大月短大の関係

大月短期大学の印象はどうですか？
名前を3人以上挙げるができますか？

全国の公立短期大学

川崎市立看護短期大学	川崎市	1,496,035人
静岡県立大学短期大学部	静岡市	703,393人
鹿児島県立短期大学	鹿児島市	606,624人
倉敷市立短期大学	倉敷市	483,576人
大分県立芸術文化短期大学	大分市	478,491人
岐阜市立女子短期大学	岐阜市	406,735人
長野県短期大学	長野市	375,234人
三豊短期大学	津市	279,304人
島根県立大学短期大学部	松江市	205,402人
会津大学短期大学部	会津若松市	124,062人
山形県立米沢女子短期大学	米沢市	85,475人
盛岡短期大学	滝沢市	55,279人
宮古短期大学	宮古市	54,573人
新見公立短期大学	新見市	30,583人
大月短期大学	大月市	25,000人

平成28年 短大を卒業し、
大月市に就職した人

0人



大月短大の強み

大月短期大学は**強み**であり**魅力**

短大には既に**地域と関わる**
ことができる大月学入門や
地域自習といった講義がある

も絡めて地域の課題を探っています。私は、この講義を受けて岩殿山や猿橋といった観光名所の歴史的背景、大月市の現状などが学べたほか、慣れない環境の中で生活をする上で、今住んでいる場所がどういう所かを知ることができました。

過去のカリキュラムですと、具体的には、一年生の4月に、大月市の情勢や歴史、文化財を学び、5月以降は、民間企業を招き、大月の地域経済についての講義があります。6月には、市民活動の方を招き、地域交流について学んでおります。この講義で地域の人と関わることに興味を持ったため、1年次後期、2年次を通して、地域実習に携わろうと思いました。

次に、地域実習では、軽トラ市で販売のお手伝いをしたり、大月エコの里で農業体験をしました。軽トラ市では、普段関わることのなかった商店街を知ることができ、企業、お店の新しい発見がありました。実際に携わり、地域の活性化に貢献できる楽しさを味わうことができました。

大月エコの里とは、これまで手つかずとなっていた山林・原野などの豊かな資源を活用して、安全でおいしい農作物を育てたり、様々なイベントを実施することで、地元住民と都市生活者の交流を図った取り組みをしています。農業体験をしながら地域の方との交流も図ることができました。大月エコの里では、年間を通してさまざまなイベントが行われています。私自身が関わったことは、収穫がメインですが、人との交流を目的としたイベントも行われています。

私たち自身も大月で農作業を体験し、学園祭で採れた農作物を販売しました。地元で育てた作物を学園祭で売った時に、ただ売っただけじゃなく、自分たちで育てたことを地域の方に伝えていたところ、安心して買っていただくことができました。大月エコの里の方や市民の方々と交流しながら、作物を育て、収穫、販売まで実際に体験しながら学ぶことができるので、良い経験となりました。

ここで私が出会った大月エコの里のスタッフの方々との出会いを話させていただきます。当時、短大2年生だった私は、実家で農業をしていることもあり、一年間を通して、大月エコの里で農業について学ぼうと考えていました。しかし、同学年は誰もいませんでした。その時に気にかけて頂いたのが、エコの里のスタッフの方々でした。大月エコの里での活動など、学ばせて頂いたことがたくさんありました。これは、そば作りをしている写真ですが、左で指導して頂いているのが短大在学中の私です。私が、サイクリングが趣味と言った時には、おすすめの場所を教えて頂いたり、活動とは関係がないことも話しました。しかし、私には何気ない世間話が一番地域との関わりを感じました。短大を卒業した後は、編入して大月市を離れることを伝えると、エコの里は宿泊もできるから友達でも連れてまた遊びにおいでよ、と言われました。そして、活動最終日には、大月市に戻ってきてね、応援しているよ、とまで言って頂きました。大月エコの里を受講していなければ関わる

大月学入門

- 4月 大月市の基礎について
「大月市の歴史と文化財」
- 5月 民間企業による大月の地域経済について
「地域金融として役割と地域経済」
- 6月 大月内で行われている地域交流について
「NPO法人エコの里と地域農業」

地域実習



短期大学には地域に密着した演習や、地域をテーマとした科目が数多く設定されている



大月エコの里イベント

- | | |
|---------------|----------------|
| 1~3月 間伐・薪割り体験 | 6月 小麦「エコ美人」の収穫 |
| 2月 しいたけ種菌交流会 | 7~8月 夏野菜の収穫 |
| 2~6月 春野菜の収穫 | 10月 秋の収穫祭 |
| 4月 さくらまつり | 9~12月 秋野菜の収穫 |
| 5月 タケノコ掘り | 11月 大豆の収穫 |



地域の人とコミュニケーションを得て繋がりができた
大月短大では、講義を通じて関われる機会がある

もっと関われる機会を作りたい。

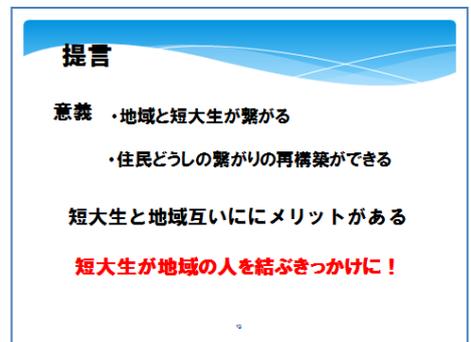
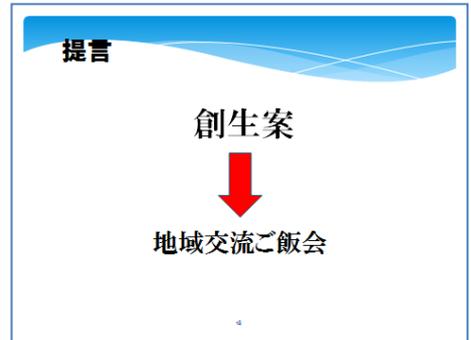
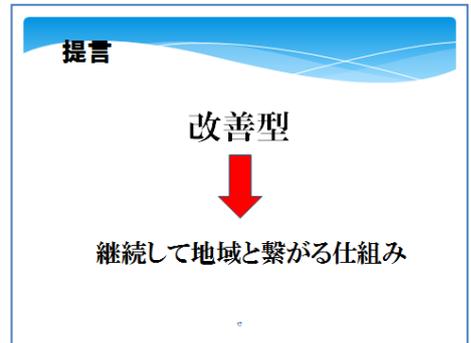
ことがなかったであろう人達と交流し、こんなに深く地域との関わりを持つことができれば、当然、私の心にも刺さります。

こういった経験があったからこそ、私は大月に愛着を持たせて感じています。私の場合は、愛着を持たせたことの他に、大月で地域の方々と活動することの面白さにも気づきました。これは、知れば知るほど人との繋がりがあり、大月市に魅力があったからだと思います。そこで、行政と地域の方々々が協働した町づくりをしたいと考え、私は市役所に就職をしました。短大生は、県外の人も多く、地域のことをもっと知りたいと思っている人が多いと思います。ただ、繋がりがなく、活動に参加できてない人も多いと思います。そのため、地域の皆さんには是非、短大生を受け入れるアプローチをかけて欲しいと思います。なぜなら、それによって、これまで以上に短大生が地域との関わりを強く感じて、私のように戻ってくる人が増えていくことを期待できるからです。以上のように、小さなきっかけが積み重なり、人との関わりを感じ、私は魅力が大月市に感じました。

では、どのように人と人との繋がりを築き、関わっていけば良いのかということですが、提案として、改善型と創生案の二つを挙げさせていただきます。改善案としましては、先ほどの大月学入門は入学してすぐに行われる講義ですが、ゲストスピーカーの話一度聴いたら、そこで終わりになってしまいます。さまざまな分野のゲストスピーカーを招き、お話をしているのです、短大生が興味のある分野で地域に携われる機会を作ることが良いのではないかと考えます。軽トラ市についても、その一回限りであり、継続して商店街と関わる機会の創設も必要ではないかと考えています。

また、創生案としては、地域交流ご飯会を行うことを挙げさせていただきます。これは、地域の方々や短大生がそれぞれおかずを持ち寄って、みんなで食事をするというものです。地域住民と短大生の間に繋がりが始めは無いため、いきなり地域に出て活動することは難しいと思います。そのため、まずは、地域住民と短大生との信頼関係づくりをしていきたいと考えています。はじめは、短大生が主体となって、地域に呼びかけるところからスタートします。

意義としては、地域の人と短大生が直接的なつながりを築くことができる点や、大月市内の住民同志が集まることで、地域の繋がりの再構築ができることです。これによって期待できるのは、短大生が地域の人と繋げるきっかけになることです。食事会から始まったものが、短大生はより地域の繋がりを感じて、気付けば短大生が地域の一員として活動に参加することも考えられます。短大生は、社会の中で必要なことを学生のうちから学ぶことができるメリットもあります。地域の方にとっては、若者ならではの発想や視点を獲得することができるのではないのでしょうか。例えばですが、私は実家が兼業農家でお米や野菜を作っていますが、毎年余らせています。どうせ、余らせるくらいなら、実家で取れたものを食べて頂きたいですし、皆で集まって食事をすることが欲しいです。今からでしたら、地域交流ご飯会を岩殿山の丸山公園で花見をしながら集まるのもいいと思います。その時は、短大生に重い荷物を持たせて構いません。ここで大切なのは、敷居を下げて、誰でも参加できる環境であり、交流を深めていくことだと思っています。



次に私が、就職してから知った大月の良いところをお話します。一つ目に、地域での生活や地域活動の基本単位となる自治会活動や住民の自主的なコミュニティ活動が活発に行われている。これは大月の地域特

在学中は知らなかった
就職してから知った大月の良いところ

- 地域での生活や地域活動の基本単位となる自治会活動、住民の自主的なコミュニティ活動が活発に行われている

性であると思います。市長との対話や市制協力委員長会議を通して知りました。私の地元では、自治会が何をしているかは具体的には分からず、公表されることも少なかったと感じました。大月市は活発であるがゆえに、市民から見てもわかりやすいと思いました。そして大月市の目指す協働の街づくりを実践していると思います。地域でできることは、地域で対応する。出来ないことは市と話し合っ

て一緒に取り組む。市長との対話集会でも、住民が直接市長に意見を言う機会があり、官民一体となった町づくりが行われていると思いました。具体的には、市民から要望があったために、鳥沢駅のトイレが新しくなったことなどが挙げられます。市がお手本となるのではなく、地域の方々が自ら進んで活動しているのは地域の活力にも繋がっているのではないかと考えます。二つ目に、市内のスポーツ施設や小中学校施設が開放され、活発に利用されていることです。私は、現在、大月市内で、週に数回バドミントンをしています。県外からきた私でも受け入れてくれる環境であり、とても嬉しく思っています。また、スポーツを通じていろんな年代の方々とも関わっています。短大在学中は、加わるコミュニティはあるのに、活動が行われていること自体知らなかったの

ので、知る機会があればよかったと思います。編入後に一度、大月市を離れても地域との繋がりが、自分を引き付けていたのだと思います。私は、感情に動かされていたと言っても、過言ではありません。確かに、市の魅力づくりには、資源や観光も大事だと思います。しかし、私の経験からも、それ以上に人と人の繋がりが大切であると考えています。この人と人の繋がりが

自分が、市の一番の魅力に繋がるのではないかと考えております。

大月市のまちづくり
「暮らしやすいまち」そして「住んでみたいまち」へ、
行政と市民が協働したまちづくりを目指している。

↓

信頼と協働のまちづくり

地区対話集会の様子



在学中は知らなかった
就職してから知った大月の良いところ

- 市内のスポーツ施設や小中学校施設が開放され、活発に利用されている

編入後も大月市に来たいと思えた

↓

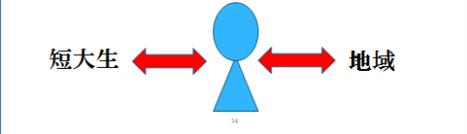
観光や資源よりも、人と人の繋がりが地域の**一番の魅力**になる

2014年2月の大雪

関わりたくても、
関われなかった

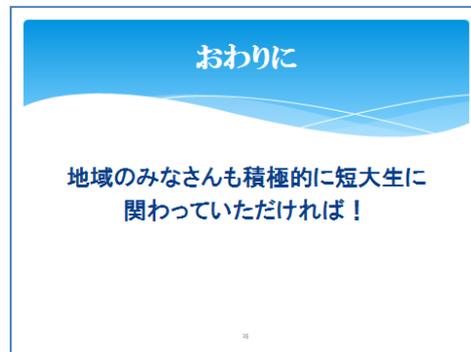
~~短大生~~ × ~~地域~~

短大生 ↔ 地域



最後にまとめとしまして、2014年2月の大雪は覚えている方も多いかと思います。そのとき、短大一年生だった私は、友達と何かできないかと考え、雪かきのお手伝いをしようと考えました。しかし、手伝いたいと思っても、その意思を伝える場所が分からなかったり、スコープがないために、自分の住んでいた周辺しか雪かきをすることができませんでした。短大在学中に地域のために何かしたいと思っても、どこに声をかければ良いか分かりませんでした。そこで、私の経験からも地域のために関わりたい人が関わる機会が必要だと思います。そのために、始めは、私が窓口になりたいと思います。地域のために何かしたいと考えている人の気持ちに今度は市役所職員として、応えていきたいと思います。是非、私に連絡してください。

最後になりますが、最近は、私のように大月市に魅力を感じて、編入後に大月市に戻ってくる人が増えてきています。更に増やすためには、短在学中から地域の人との繋がりを大切にできれば良いと思います。そのために、地域の皆さんも積極的に短大生と関わって繋がりを築いて頂ければと思っております。以上です。ご清聴ありがとうございました。



【榎平コーディネーター】

寺島さん、ありがとうございます。ご自身の経験に基づいて、特に短大在学中の地域の人々と触れ合う中で大月の魅力を感じていったという具体的提案でありました。私も大月学入門や地域実習を担当しておりまして、今更ながら責任を感じて非常に興味深く聞かせて頂きました。一点だけお聞きしたいんですが、市民の方々と短大生の繋がりを強めていくという提案で非常に説得力があったんですが、やっぱり本来の目的は市民の方同志がより希薄化してしまったイベントの繋がりを乗り越えていく、これがどう進んでいくのかというのが一番大切なんだと思います。そういう中で短大生の活躍が大きいのは分かるんですが、具体的に市民と市民の方々との繋がりをより強めていくためにはどう短大も関わっていけばいいのか、その辺のお考えをお聞きしたいんですけども。

【パネリスト 寺島 氏】

地域の方々との関係が希薄しているということですが、私が提案したいのは、地域交流ご飯会ということで短大生を絡ませて、地域の雰囲気や再構築できるきっかけ作りに短大生が一役買えれば良いと思います。繋がりたいという意識を持てば、周りの人々が介入して来まして人が人を呼び、人を助けてくれると、それがやがて直接的な繋がりになるのではないかと考えています。



【榎平コーディネーター】

なるほど。仲介役といいますか、間を取り持つような、そのための仕掛け作りが大切だというお話でしたね。これは福祉ですとか、防災、災害なども含めていろんな意味で住民同志繋がりを持っていかなければならないという大きな課題であります。そこに大月の資源である短大がどう関わっていくかということをお話していただく必要があると思います。ありがとうございます。

それでは、最後の報告になります。大月短大の私のゼミの学生なんですけども高田さんをご紹介したいと思います。まもなく3月11日が参ります。あの未曾有の大震災を地元の福島県で体験しました。その中で人と人の繋がりでずとか地域の大切さを非常に強く感じて、ぜひ大学でも地域のことを勉強したいということで私のゼミに入りました。さらにゼミの中でもゼミ長としてゼミの繋がりを活性化していきたいという思いで頑張っています。そういう彼女に今回、報告をお願いしました。この大会に直接的に関係している公民館を見直そう、ということで勉強を続けております。それではよろしくお祈りいたします。

【パネリスト 高田 侑依 氏（大月短大・楨平ゼミ）】

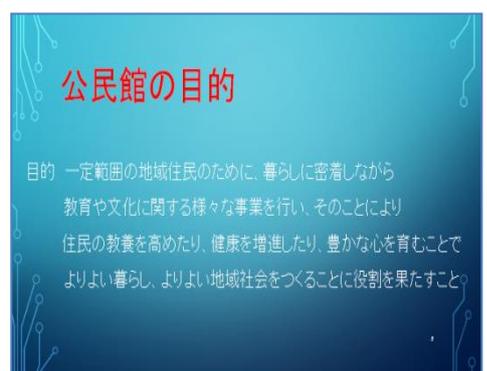
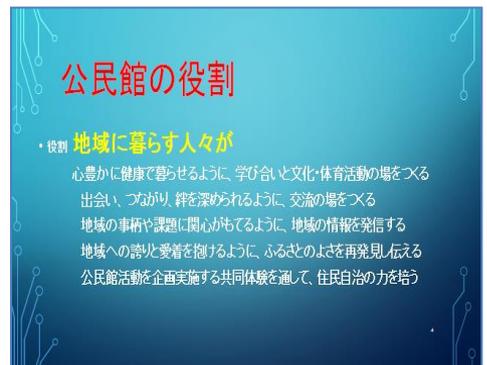
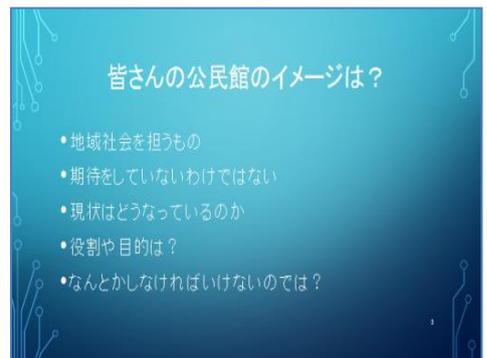
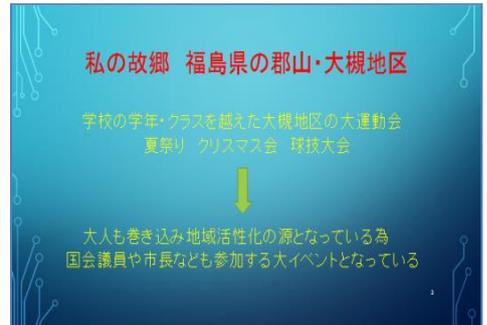
皆さんこんにちは。大月短期大学楨平ゼミに所属しております、経済科一年の高田侑依と申します。本日はこのような場で発表させていただき、光栄に思います。本日、私からは生涯学習の場として公民館を地方創生の舞台にするためにはどうすれば良いのか提案できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

私はこれまで生きてきて地域は重要だと当たり前のように考えてきました。しかし、そこまで深く考えたことは無く、大学に来てゼミで地域づくりが大事だと学び、学校教育だけではなくて地域、社会教育が結び合うことが大事で、出会い、仲間、それをつなぐ場とは何なのかと思い起こしました。今考えてみると、公民館で盛んに行われているイベントでした。私は福島県の大槻という地区に住んでいたことがあります。偶然でしょう？漢字は違いますが同じ「おおつき」なんですよ。ここでは学校の学年・クラスを越えた大槻地区の大運動会、夏祭り、クリスマス会、球技大会など実に様々なイベントを行っていました。大人も巻き込み地域活性化の源となっている為、国会議員や市長なども参加する大イベントとなっています。これで地域への愛情がつくられたことを思い出し、私は公民館に可能性があるのではないかと考えたのです。公民館だけが地域の核になるわけではありませんが、もっと生かせないかと考えました。

では、皆さんの公民館のイメージはどうでしょうか。地域社会を担うものではあるだろうし、期待をしてはいるけれども、現状はどうなんだろう。そもそも公民館の役割や目的って何？なんとかなしなきゃいけないんじゃないの？と皆さん思っているのではないのでしょうか。これが一般的なイメージではないかと思います。それでは、具体的に公民館の役割と目的を見てみましょう。

公民館の役割は、地域に暮らす人々が心豊かに健康で暮らせるように、学び合いと文化・体育活動の場をつくること。出会い、繋がり、絆を深められるように、交流の場をつくること。地域の事柄や課題に関心がもてるように、地域の情報を発信すること。地域への誇りと愛着を抱けるように、ふるさとを再発見し伝えること。公民館活動を企画実施する共同体験を通して、住民自治の力を培うことです。

次に公民館の目的は、社会教育法第20条によりますと、公民館は、市町村その他一定区域内の住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。となっています。分かりやすくいいますと、一定範囲の地域住民のために、暮らしに密着しながら、教育や文化に関する様々な事業を行い、そのことにより、住民



の教養を高めたり、健康を増進したり、豊かな心を育むことで、よりよい暮らし、よりよい地域社会をつくることに役割を果たすことにあります。そもそも公民館とはこういう場所だったのです。しかし、どうでしょう。理想と現実にはギャップがあるように感じませんか？翻って考えてみると形骸化、衰退化していて、郷土愛を育むことは難しくなっている気がします。

具体的に公民館を思った際に調べてみようと思い、魅力的な活動をしている場所に出会いました。それが、長野県の飯田市です。実際に現地視察に行ってきました。ここでヒアリングを行った結果から報告したいと思います。

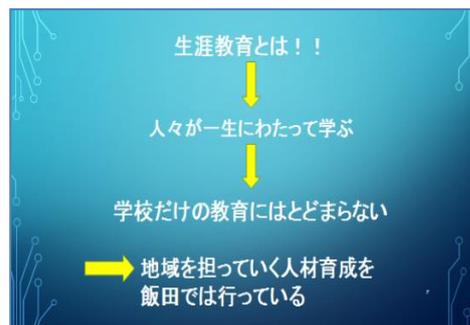
飯田市の合言葉はムトス 誰もが主役 飯田未来舞台と称して、常に時代の変化に対応し、知恵と力を終結させ、自主自立の精神を基に、特色ある地域自治や環境への取組、経済自立度向上への挑戦など、飯田独自の仕組みをつくりだしてきました。ちなみに、この「ムトス」とは、広辞苑の最末尾の言葉「んとす」を引用したもので、「～しようとする」という意味であり、行動への意思や意欲を表す言葉として、飯田市が昭和57年「10万都市構想」において理想とする都市像の実現に向けた行動理念として使用しました。そんな飯田市で行っている重要な活動があります。それは、りんご並木です。これは、飯田のまちにある並木通りのことです。昭和22年に街の一角から発生した火が強風にあおられ、城下町の古い面影を残す中心市街地の約80%を焼き尽くしました。復興に向け、防火用道路として幅2mの「裏界線」が設けられ、防火帯道路の中央には、「自分たちの手で美しい街をつくろう」という飯田東中学校の生徒の発案に基づいてリンゴの木が植えられました。この「りんご並木」は飯田市のまちづくりの原点であり、その誕生の物語と共に、シンボルとなっています。さらに、平成21年1月、飯田市は「環境モデル都市」に選定されました。りんご並木のエコハウスは環境モデル都市飯田における市民による環境活動の拠点として平成21年度に整備されました。南信州材をふんだんに活用し、夏の暑さや寒さ、昼夜の寒暖や風越山から吹き下ろす風など、飯田市伊那地域特有の自然を上手に取り込み、エネルギーとして活かされています。環境負荷が少なくかつ快適な暮らしを実現する環境共生住宅、つまりエコハウスの普及などの活動に取り組んでいます。

本題に入りますが、「生涯教育」とはなんなのでしょう。文字の通り、人々が一生にわたって学ぶことでしょう。学校だけの教育にはとどまりませんし、大人も子供も関係ありません。そして、人々は生涯教育のもとに意欲・価値観・学力を育むことを目的とした地域社会をつくりまします。地域を担っていく人材育成、飯田ではこれを公民館で行っているのです。

それでは実際に公民館でどのような活動が行われているのか説明していきます。まずは、橋南公民館の事例を紹介します。こちらの公民館は家庭の中で親も働きに出てしまっていて子供が孤立してしまっていたことが課題にありました。それが上下関係など、人間関係の希薄化につながると考えたのです。それを解決するためにこちらでは様々な活動が行われていますが、その中でも特に「ウォークラリー大会」、「飯ごう炊さん」について紹介したいと思います。ま

飯田市の紹介

- 合言葉は「ムトス」誰もが主役 飯田未来舞台
広辞苑の最末尾の言葉「んとす」を引用したもので、「～しようとする」という意味であり、行動への意思や意欲を表す言葉として、飯田市が昭和57年「10万都市構想」において理想とする都市像の実現に向けた行動理念
- りんご並木(エコハウス)



橋南地区

- 課題 都市的どころではない
- 親が働きに出て子供が孤立してしまっている

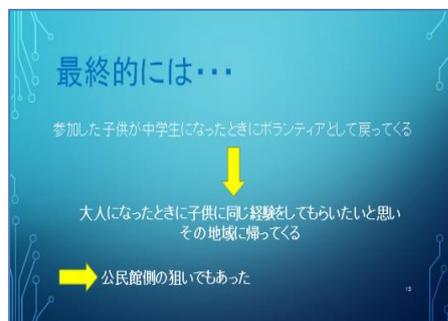
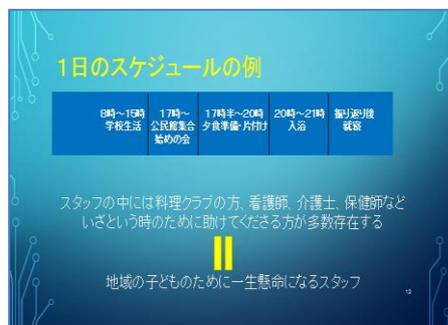
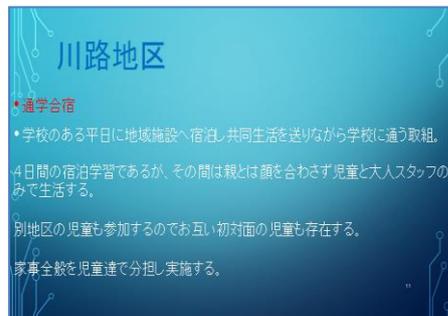
橋南地区

- ウォークラリー 地域住民の体力増進が目的だが、街並み・地域の史跡を俯瞰することで歴史と文化を再発見できる。更に防火・防犯施設をコースに盛り込み地域全体の役割を認識する。
- 飯ごう炊さん 児童を中心に学校の行事で行われなくなった炊き出しを経験させる野外活動➡大人ができるだけ手を出さずに、質問されれば回答する形式で児童が目標に向かって協力する事を学ぶ。

ず、「ウォークラリー」です。この活動の目的は、地区住民を対象に、ウォーキングでの体力増進および、橋南地区の街並み・歴史・文化を再発見する機会とすることです。特徴は事前に公民館委員がコースの下見をしながら問題を考えられています。これによって、委員さん自身も街並みを再確認できる場になります。地域の歴史的な側面や、防火防犯の施設などをコースに入れることで、体育事業でありながらも橋南地区を知ることや文化を学習する機会となっています。日赤奉仕団の協力を得て、炊き出し訓練という各自で豚汁とおにぎりなどを配布しています。次に「飯ごう炊さん」です。この活動の目的は、児童を対象に多様な体験活動を提供し、協調性や挑戦する心を育むことです。特徴は小学校の行事で行われなくなったものを、公民館・育成委員会で実施します。大人ができるだけ手を出さないように心がけていることにより、子ども達が1つの目標に向かって皆で協力する姿が見られます。

次に、川路公民館の事例を紹介します。こちらの公民館では子供が家に閉じこもるということが課題にありました。昔は世代を超えて遊んだりしていましたが、それが無くなり、学校から帰ってきた後のコミュニケーションが薄れていたのです。それを解決するために、こちらで行われているのは「通学合宿」というものです。これは、小学生が「学校のある平日」に「地域の施設に宿泊」して「共同生活を送りながら学校に通う」事業です。概要は、川路小学校の5・6年生の希望者を対象に、6月、場所は川路公民館、通学合宿実行委員会主催でこれまで4回ほど行っています。ねらいとしては、「親と子の自立」「多様な人との交流、つながりづくり」「生活リズム、生活習慣の立て直し」です。「子ども」を核として地域住民・保護者・学校教員等が一堂に会し、ともに考え協働するプロセスを通して、世代・立場を越えたつながりを育んでいます。ちなみに、具体的なスケジュールはこのような感じになっています。まず1日目は8時から15時まで学校生活を送り、17時に公民館に集合、始めの会を行い、17時半から21時まで夕食の準備、片付け、入浴を済ませ、21時半には就寝という形です。翌朝は6時半に起床、登校準備、朝食、片付けの後、登校をし、学校生活を送った後、少し早めに帰館し、そのあとは同様に最終日まで過ごします。また、通学合宿のスタッフの中には料理クラブの方や看護師さんなど、いざとなる時に助けてくださる方が存在します。こうして地域の子どものために一生懸命になっているのです。そしてこれで終わりではなく、実際にこの通学合宿に参加した子どもが中学生になったときにボランティアとして戻ってくるのです。さらに最終的にはその子供が大人になったときに、自分の子どもに同じ経験をしてもらいたい、その地域に帰ってこさせることを狙いとしています。

飯田の公民館の最終的な課題としては経験交流の不足が挙げられました。この課題は大月にも言えることでしょうか。初めは参考になるものの真似でも良いので、やってみることが重要です。実際に通学合宿においては、協力してくださる方がいれば、すぐにでもできることでしょうか。このように、課題の末に公民館活動があり、公民館が危機を覚え、見直すことが取組の起点になったのです。様々な地域の課題にその地域の人達と取り組み、取組を継承していきます。学びを通じて学び、それを生かして地域を良くしてい

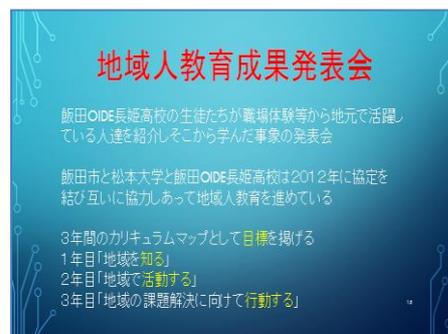
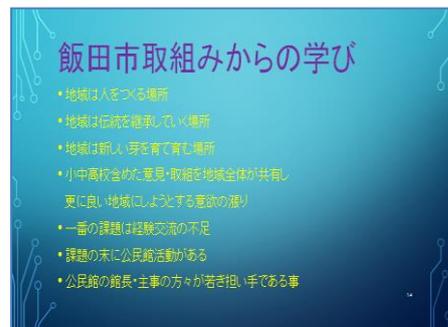


く実践の場として公民館があります。

このように、飯田市の公民館では子ども達が地域に対して愛着を持ってもらえるような活動を行っています。城下町という複雑な人間関係のもとで、商売もあれば住居もあり、色々な利害関係がある中で将来を担う子どもたちに焦点を当てて、活動に取り組む中で大人たちも巻き込んでコミュニケーションも活発にしていけるのです。また、飯田市では「公民館をやる」といいます。場所ではなくて活動そのものと認識していることも特徴のひとつといえます。訪れた三か所の公民館でお話を聞いたところ、共通する部分がありました。それは、公民館は「地域を作る”人”を作る場所である」ということです。自分たちのことは自分たちでやっていく力を育む役割を公民館が担っているというのです。言うならば探求学習、それを地域でどれだけできるのか。また、人との関係をつなぐ役割も果たします。コミュニケーションには不可欠な場所なのです。災害に対して強い地域をつくっていく核ともなりますし、子どもを守る安心の家としてだけでなく、地区の大人づくり、そもそもの人とのつながりづくりもできると、多様なことができ、素晴らしい効果ばかりです。そして、よりその効果を高めるために重要なことがあります。それは、計画する世代です。公民館といえば、館長と主事が主体です。これらの公民館では若い人がそれを行うのです。経験をしたことがある人と協力をしながら公民館活動をしています。

さらに、飯田市鼎文化センターというところで「地域人教育成果発表会」というものがあり、飯田OIDE長姫高校の生徒たちが地域社会という「現場」を体験し、そこで活躍している様々な方と出会った中で学んだことを発表してくれました。この学校で展開されている「地域人教育」は、高校生が地域理解を深め、地域での生き方を考え、郷土愛を育み、地域活性化や地域社会に貢献できる人財を育成する教育プログラムです。飯田市と松本大学と飯田OIDE長姫高校は2012年に協定を結び、互いに協力しあって「地域人教育」を進めています。伸ばしたい力は自分で考え、行動できる力。育てる人財像は地域の産業、暮らしの中核を担うリーダーとしています。3年間のカリキュラムマップとしてそれぞれ目標を掲げています。1年目には「地域を知る」ということで、大学の先生から地域について学んだり、フィールドスタディを行ったりします。2年目には「地域で活動する」ということで、地域の方と協働してイベントの準備、実施などをします。3年目には「地域の課題解決に向けて行動する」ということで、生徒によるイベント企画、市長や地域の方への街づくりに関する提言活動などをします。学びの積み上げをして、この全校課題研究発表会に臨むのです。社会に出る一歩手前から発表することで巣立っていく人材サイクルができています。高校生のうちからこのような経験をできる機会を与えられることに私は感動いたしました。生徒たちは非常に生き生きとした様子で、この教育の在り方の正しさがうかがえました。

このように飯田市では、主に公民館を活動拠点にしています。実際に大月市でも出前講座や、親子体験社会科教室として化石発掘体験や、キャンプ体験など実に様々な活動を行っています。この大月市生涯学習推進大会も、立派な公民館活動のひとつです。今回で既に56回目と、長い歴史があります。この活動をこれからも続けていくべきでしょう。今までの活動とともに、その流れの中に少しでも飯田のようなことを取り組んでいくことができれば良いのです。それが、おのずと生涯学習に繋がっていきます。



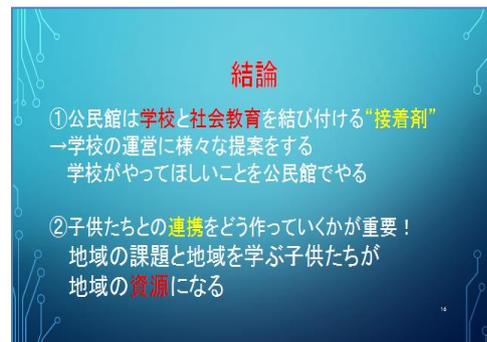
以上の発表から次の結論が言えると思います。ここで改めて画面をご覧ください。まず、公民館は学校の運営に様々な提案をしたり、学校がやってほしいことを公民館でやったりと、学校と社会教育を結び付ける接着剤である、ということです。また、子ども達との連携をどう作っていくかも重要です。小中学生は自分たちが住んでいる地域に学校があるので地域と密着しています。高校生、大学生は地域と離れた学校に通うので、自分たちの住んでいる地域とは切り離されてしまいます。その人たちが地域に対して

どう関わっていくか、問題関心や成長のステージを意識しながらの大学や高校との地域の連携は大事です。義務教育ではない環境で学ぶ中で、地域をどう元気にしていくのか考察していきます。その発展形として具体的に公民館がどうかかわるかが重要です。そのようにして、教育で流れをつくるのです。そして補足ですが、飯田市では文科省が行っているコミュニティスクールがありまして、そのコミュニティスクール推進協議会が組織的に市として進めているのです。学校運営に地域の人たちが参画していて、公民館の館長か主事が必ず入っていることも魅力のひとつだと気づきました。

今回、公民館について学んでみて、学びをさらに深めて研究生活に活かしていきたいと思います。また、地域の活動に対してボランティアをしたいと感じました。例えばですが、寺島さんの発表の中にあつたような、大月エコの里で収穫したものを販売する機会を増やすことなど、小さなことから挑戦したり、アイデアを出したいと思いました。

最後になりますが、きれいだけでなくも生きているものを作ることができるのは公民館だけです。理想はみんな違えど、熱意と説得で思いを共有してくれる仲間を見つけ、行動してみましょう。もしクレームがあるならば、その人を味方にするのです。思いがなければ苦情なんてしません。楽しければいいというわけではなく、過去や経験が違う人をどう取り込むかが重要です。初心に戻りながら継続して引き継ぎ、自分だけではない、誰かのために、地域のためにここ大月市もさらに良い方向に変わることを心から願っています。

私からは以上です。ご清聴ありがとうございました。



【榎平コーディネーター】

高田さん、ありがとうございました。地域における様々な課題、主に子どもに関する課題、そういった課題に公民館が中心となって解決していく中で人づくり、人育てというものを含めて育てていく、そういう場に公民館がなっていくというお話でした。一つだけお聞きしたいんですけども、公民館というものはどちらかというとカルチャースクール化していると言われていて、あるいは形骸化してきていると言われていて、そもそも地域自治の担い手を育てていく、そういう場としての目的があるんですけど、飯田市の事例を通して公民館活動というものが地域自治を育てていく、そういうものとして高田さんはどういう風に見ていますか。

【パネリスト 高田 氏】

飯田市では公民館での課題を地域の人たちと共有して、なんとか皆で協力して解決していこうというのがありまして、仲間を自ら作っていくという形で自分たちの中で留めないで周りを巻き込んでいくという形が見えます。



【榎平コーディネーター】

そうですね。あの、おっしゃったように地域の課題を解決していくための組織というものをそれぞれの地区ごとに作っていてですね、そこに公民館が中に入っていくと。そういう形の中で公民館ならではの様々な課題、地域自治あるいは学校教育に関わったことの課題をその組織の中に持ち込んでいくといった役割を果たしているということでした。ありがとうございました。

■ 第2部 パネルディスカッション、会場との対話

【榎平コーディネーター】

それではですね、3名の報告は終わりましたが、皆様方からご質問、ご意見等ございましたら、まず頂いた上で第2部のパネルディスカッションに入っていきたいと思えます。ご質問ある方は挙手をして頂いて、ご所属とどなたに対しての質問なのかをおっしゃって頂いてからご発言をお願い致します。ぜひ、積極的にご発言をお願い致します。いかがでしょうか。

【質問者 A 男性】

3名のパネリストの方々、素晴らしいご報告ありがとうございました。参考になりました。何点かご質問がございますけれども、まず先に一点、高田さんにですけれども、公民館を中心として地域と繋がっていくということでしたが、大月市で仮に大災害が起きた時に市内に残っている青年、壮年の方々はほとんど市外に働きに行っております。そうしますと、子どもさん、年寄りの方々が中心になってしまうわけですけれども、先ほどのご報告の中に高校、大学とどう協力し合っていくかという報告でしたけれども、特に災害という部分に絞って、例えば大月短大ではどのような対応を考えているのか。また、そういったことを話し合っているのか、というのが一点。もう一点は放課後、子どもたちに対して放課後子ども教室等やっているわけですけれども、素晴らしいなと思ったのは、飯田市で6月ですか、子どもたちをお預かりして夜、宿泊体験をするといったお話がございましたけれども、その中で一点、入浴はどこでやったのか、また、どのくらいのお子さんが参加されたのか。私、青少年育成大月市民会議の会長をさせてもらっています小俣と申します。よろしくお願ひいたします。



【榎平コーディネーター】

そうですね、大災害の際に短大生が何をするか、という話はどうでしょうね。学校で話されたことはありますか。

【パネリスト 高田 氏】

災害につきましては、あまり私自身も聞いたことがなくて、申し訳ないんですが今回を機に周りに聞いてみたり、私自身も勉強していきたいと思えます。

【埜コーディネーター】

そうですね。私も教員の立場でですね、大災害の時にどう対応すればいいか、マニュアルはあるんでしょうけれども、きちんと見たことがないので、これは問題だと思いますので持ち帰らせて頂き、ぜひ、検討していきたいと思えます。

【パネリスト 清水 氏】

今、災害の話がでましたけれども、私は消防団の役員をやっていますが、大月市では学生

消防団というのを募集していますので、その辺から入ってもらって考えてもらうのも一つの手ではないかなと思います。

【榎平コーディネーター】

そうですね。地域の若者、特に将来がある人が消防団がどんどん引き入れて、もちろん防災の役目もあると思うんですけど、地域との繋がりを作ることでも、ぜひ入ってもらっていただきたいと思います。ありがとうございます。

あと、もう一点、通学合宿の入浴のこと、参加人数のことはどうでしょうか。



【パネリスト 高田 氏】

入浴についてなんですけど、公民館の近くに温泉施設がありまして、そこの方に協力を頂いて使わせてもらっているということを知りました。そして、人数なんですけど、川路小学校は四地区が狭くて五、六年生合わせて30人程度しかいないんですね。通学合宿というのは強制ではなくて希望者を対象に行われるので、毎年20名程度が参加して行われています。

【榎平コーディネーター】

対象者の三分の二程度は参加しているということですね。よろしいでしょうか。

【質問者 A 男性】

どうも、ありがとうございました。再質問なんですけど、そのイベントの働きかけは学校の先生方からやるのか、公民館の方がやるのか、あるいは後援団体といいますのか、そういう団体がやるのか、その辺はどうでしょうか。

【パネリスト 高田 氏】

一概にどこからこれをやろうかというのではなくて、やはり親が、子どもたちが家に閉じこもってしまっているという課題がありますので、それを学校側に申し出て、学校側が何かできないかと公民館に尋ねてみたり、輪になっていく中で、これは解決できたりしないかということをやっているんで、協力という形でこういう課題を解決していっています。

【榎平コーディネーター】

ちょっと補足しますけど、先ほどコミュニティースクールという話がありました。学校の運営をしていくのに地域の方もそれに参画してもらおうといった協議会が全地区の小学校に自主的ですがあるんですけど、そこに公民館長あるいは主事が協議会役員として入っていただいて協議会の中で課題を出し合うというコミュニケーションの中で子どもたちの課題を話し合っていく、子育て世代の親がどうしても家に居れなくて子どもが孤立してしまうといった地域社会の中での課題を話し合っていく。あるいはこれも飯田市の特徴なんですけれども、実行委員会というものをその場その場で立ち上げて、そこで参画できる人たちを組織しながら実行委員会形式で進めていくといった形にとらわれないで、その都度その都度やれる人たちを組織していくといった柔軟的な取り組みをしていく中でこれが実現したというのが実態だ

と思います。

【質問者 A 男性】

ありがとうございました。

【榎平コーディネーター】

それではもう一人くらいご質問がございましたら、お願いします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。(質問なし。) また、ご質問がございましたら後ほどよろしくお願いたします。

＜第2部のテーマ＞

私たちが地域に生きがいや居場所を見つける活動を行う中で、次世代を担う人材（人財）をどう育てていけばいいのか？

- ① 地域で、素敵なカッコイイ生き方をしている人との「出会い」の場をどうつづけていくか？
- ② やりたいことを一緒にやれる「仲間」とどうつながるか？
- ③ 次世代を担う若者の「自己有用感」（自分は周りに対して働きかけ、より良く地域を変えていくことのできる価値ある存在であるという自己肯定感）をどう育てていくか？
- ④ 活動を通じて考えたことや成果を発表・伝達する機会をどう作っていくか？

それでは第2部ということで、休憩もなく大変恐縮なんですけど、今のご報告を踏まえましてですね、これから私達が大月で生活をしていく、それはもちろん経済活動もあるんですけど、この大月でぜひ生きがいを持って、そして居場所を見つけて生き活きと地域社会で生活していくためにはどうしたらよいか、そして当然次世代を担っていく人達を育てていかなければならないですけども、みなさんが生き活きと生活していくことと次世代を担っていく世代を育成していくことをどう統一的に考えていくかということテーマにしてパネラーと私を含めて議論したいと考えています。非常にこれは大きなテーマなんですけど、前に学生達に「問いを持ちなさい。」ということを行いました。それは大きな問いでいいです。まず、クエスチョンを作る。そして、その問いをより細かく分類しながら解きやすい問いを作り解決していく、そして大きな問いに接近していくということが大切だと常々言ってきました。それを今回、私なりに分解してみました。まあ、大きく四つに分解してみました。大きなテーマとして住民が地域に生きがいや居場所を見つける活動を行う、猿橋のように生きがいを持って活動していく中で、それと同時に次世代を担う人材（人財）をどう育てていけばいいのかを大きく四つの問いに分類してみました。

一つ目は、地域に様々な人達が活躍している。素敵なカッコイイ生き方をしている人との出会いの場をどうやって作っていくのか、まずこれが必要だと思うんですね。どうしても世代が分かれてしまうとなかなか、他の世代がどういうことをやっているのかがわかりません。こういった出会いの場を作ることが大切だと考えています。

二つ目がですね、先ほどの実行委員会形式というお話がありましたけれども、こういうことをやりたいと一緒にできる仲間を作っていくことも大切だと思うんですね。もちろん、様々な企業ですとかあるいは何かを目的として集まっている団体や組織などこういった所ではやる事が決まっているわけですけど、それ以外でもやりたいことがある、やらなければならないといった所がたくさんあると思うんですね。それをどうやって繋がっていくのか。その仲間作り、これが大きな課題だと思います。

そして三つ目なんですけど、今度は次世代の、特に若い人達、その地域で自分も役割を果たしたい、貢献できる人間になりたい、という少し難しい言葉で言うと「自己有用感」ということなんですけど、自分が必要とされている、こういう気持ちをですね若い人に持ってもらうにはどういうことが必要か、こういうことを考えてどういう取り組みができるか、これも大切な次世代に向けた課題だと思います。

そして四つ目なんですけど、そういった活動をしていく中で、取り組みを多くの人達に知ってもらう。実は、これ自身も自信をつけていくことになるんですけど、発表したり伝達したりしていくような機会をどう作っていくか。

この大きく四つに物事を分けて考えていくと最初に書かれた非常に大きなテーマに少しでも接近していけるのかなあと考えております。もちろん、この四つの問い以外にも分け方があると思うんですけど、私なりに問題を分割して、これをぜひ、ご報告頂いた方々にそれぞれの活動、事前の報告を通じて教訓として得たようなこととお話していきながらディスカッションしていきたいと考えております。

それではですね、一つ一つお聞きしたいんですけど、まず一番目のテーマですが、地域で素敵なカッコイイ生き方をしている人との出会いをどう作っていくのか。これについて、それぞれの立場からお話をお聞きしたいと思っております。それでは清水さんからお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。



【パネリスト 清水 氏】

猿橋では先ほど紹介したようにいろんなイベントが4月から続くわけですけど、結構今までは同じメンバーでやっていましたが、知らないところで自然と増えていっているのが事実です。私達はカッコイイと思いながらやったことは一度もなく、とにかく楽しいことを続けていきたい、その楽しいことってというのは年代によってかなり違うものがあるということは事実です。私達が二、三十代の時かな、手作り仮装であったり、ちんどん屋も自分達で4月のお祭りなのに3月からすでに練習が始まっています。ただ、働き方が変わったり、時代が違ってくるかはよく言われますが、私達の子も達世代が以前のお祭りのことを子どもの時にみんな親の姿を思い出してくれているようで、最近は若い人も活動の仕方が若干変わりつつあるようです。

【榎平コーディネーター】

自分達で変えているつもりはないけれども、楽しいことをやっている、そこにご自身である私達も楽しみたいということ、うしろ姿を見せていっていることが次に繋がっているとい

うことですね。次に寺島さん、いかがでしょうか。

【パネリスト 寺島 氏】

私は、カッコイイ生き方をしている人は、自分がやりたいことに取り組んでいる人だと考えます。地域でいろんなテーマの講座を開催して、まずは自分が興味を持つ分野を見つける必要があると思います。そして、話を聞いた後にも、カッコイイ生き方をしている人に直接会える仕組みや、やりたいことに協賛してもらえる取り組みが必要だと思います。私自身も短大の講義である地域実習を通して、大月エコの里の素敵なカッコイイ人と出会えました。そのため、自分が思うような生き方をしている人との出会いのサポート作りが必要だと思います。

【槇平コーディネーター】

企画を立てる時に愚痴を言ったり、若いもんはと言ったりすることをよく聞きますけれども、そういう人ではなくて、やりたいことをしっかり取り組んでいる方がやっぱりカッコイイと思いますね。はい、高田さんはどうですか。

【パネリスト 高田 氏】

私は、素敵なカッコイイ生き方をしている人というのは、自分の夢を実現させるために計画性を持って実行している人だと思っていて、そういう人と出会いを作るっていうのは難しいことだと思います。コミュニケーションを持っていく中で、夢を持っている人、実現可能な夢になってしまうんですけど、それを持っている人に出会えばこの「出会い」っていうのに繋がるんじゃないかなと思っています。

【槇平コーディネーター】

学生でもってと言われると私も耳が痛いところではありますけれども、夢を語る人っていうのは素敵だなと思いますね。それを持って努力している姿をコミュニケーションを通じて見ること、それが大切だと思います。私も切り替えて考えていきたいと思いますが、いずれにしても一生懸命コミュニケーションをとることが必要だと思います。若い人と世代を越えた繋がりが大切であると思います。このことについて、ご意見ある方は、ぜひご発言頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。(意見なし。) なかなか抽象的な話ではあるんですけど、ご自身のお話があれば後ほどご発言下さい。

それでは二つ目なんですけれども、やりたいことを一緒にやれる仲間とどう繋がっていくのかということですが、組織とか地域を越えてやれる仲間を作るとい、これも大切だと思うんですけど、このことについて、あまり清水さんからばかりでは大変ですので、寺島さんからどうでしょうか。

【パネリスト 寺島 氏】

一緒にやりたい仲間とどう繋がるのかということですが、これには、やりたいと言い続けることが大切だと思います。私の実体験をお話しますと、私は短大一年生から信州大学に編入すると周りに公言していました。すると、自然と周りに同じような考えを持った人が集まって、一緒に編入の勉強をするようになりました。これを今、振り返ってみると当初周りにいた友人が、仲介役となって同じ志しを持った人を引き寄せてくれていたのだと思います。

このことから、仲間と繋がるためには、いかに自分のやりたいことを公言して周りを巻き込むかが大事だと思います。

【榎平コーディネーター】

市役所職員としてはどうですか。これをやりたいと、何か考えてますか。

【パネリスト 寺島 氏】

私が短大の時、何かやりたいと思った時にどこに声を掛ければよいのか分からなかったの
で、今度は市役所職員としてその立場になって、私が窓口になって耳を傾けていきたいと思
います。

【榎平コーディネーター】

それを言い続けて下さいね、これからも。

【パネリスト 寺島 氏】

はい、頑張ります。

【榎平コーディネーター】

高田さんはどうでしょうか。

【パネリスト 高田 氏】

難しいと思うんですけど、やりたいこと、大袈裟に言えば、その夢が町の活性化に繋がる
と思うので、その夢をそれぞれが実現できるように頑張れば、やりたいことを一緒にできる
仲間になるのではないかなと思います。例えば、どこかの町で自動車整備工場を開きたいだ
とか、お花屋さんをやりたいだとか、最終的には自然とその町のためにやりたいと思ってい
ることになると思うんですね。なので、最初から目標を決めるのではなく、最終的に大きな
目標が一緒になれば、それが自然とやりたいことが一緒にできる仲間になると思います。

【榎平コーディネーター】

なるほど、大きなビジョンですね、先ほど夢という言葉もありました。大月はどういう
町、あるいは地域になっていったりするだろうかといった大きな抽象的な夢かもしれない
ですけど、こういったものを語り合う。先ほども市長と議論する場があるという話がありま
したね、そういう場というのがいろんな形で自然発生的に出てくるということが非常に大切
なのかなと思うんですね。具体的な話がたくさんあるでしょうけど、それを含めた大きな市
のビジョンを描いていくことを市民レベルでできているということが非常に大切なのかなと
思うんですね。経済の活性化ですとか、福祉のことですとか、いろいろありますけれども、
私はそのような課題のことを考えていく上で、あえて地域社会で全体的な議論をしていくこ
とが大切だと思います。なければ経済あるいは福祉、教育ってものが長続きしていかないと
思うんですね。こういった地域の中でこういう経済、福祉、教育というものを目指していっ
た、まさに地域のビジョンありきだと思うんですね。青臭いかもしれませんが、これから
の地域で目指す方向性といったものをいろんな形でいろんな場で披露していくことが改めて
大切なかなと思います。その中で繋がってものが出てくると思います。ありがとうございます

いました。この点についてご意見等ございますでしょうか。

【質問者 A 男性】

私ばかりで申し訳ございません。仲間とどう繋がるかということですが、何年前から分かりませんが、多分半世紀の上だと思えますけれども、行政の皆様方のお力添えで、大月市老人クラブ連合会あるいは大月市老人大学というのがございます。大月市老人大学が現在18クラブだと思えますけれども、災害の時には千人を超えていたと思うんですが、段々高齢者がお亡くなりになったり、加入して下さる方が少なく、今募集をしているところでございます。ちょっと担当の方に伺った話ですけど、今現在二百七十人くらいだそうで、三百人を割ってしまうと、大変、運営が難しくなるということでございます。ぜひ、そういった所に自分から率先して参加して頂けたらありがたいなということがまず一つ、ご紹介させて頂きたいと思えます。もう一つ、大月市文化連盟で文化祭を実施しているわけですが、そういうところにも入っていただければいいなと思えました。また、今日も2階ですね、文化教室作品展が行われていますけれども、そういうところに自らで参加して頂くことによって仲間と繋がっていくのではないかと思います。そういった所に一步踏み込んで参加して頂いて仲間作りに繋げて行って頂けたらと思えます。ちなみに、私は老人大学では詩吟部というところに入っています。以上です。

【榎平コーディネーター】

情報提供を含めて、ありがとうございました。私もこういったものがあるということは、初めてお聞きしました。そういった所に若い方も含めた人が参画していけるかどうかというご努力ですね、そういう既存の組織をどう活用していくのか、あるいはそれをどうアピールしていくか、というのも大切な課題だと思います。更には、新しい組織を新しい課題を持って作っていくことも大切だと思います。ありがとうございます。その他、ご発言ありませんでしょうか。(発言なし。)はい、時間も迫ってまいりまして、大変恐縮なんですけど、先を急がせて頂きます。

三つ目なんですけど、なかなか難しいなと思うんですけど、あえてパネリストの方々にお聞きしたいと思います。若い人達に、地域に役立っているという感じる機会を作っていくことも非常に大切だと思います。若い世代にこういう感覚を持ってもらうにはどうすればよいかという大変難しい質問をあえてさせて頂きます。若い人からということで、高田さんからお願いいたします。

【パネリスト 高田 氏】

これは、私は周りに評価してもらうことが大事だと思います。自分の評価は自分でできないので、周りの人が思い自分の耳に入ってくることで、この活動をやって良かったなって思えるので、自己満足では完結しませんし、評価は人それぞれではあるんですが、プラスの意見をもらえる環境が大事ではないかなと思えます。例えばなんですけど、先ほどの私の報告で通学合宿の話をしたんですが、この通学合宿を行うことには反対の意見もあったんですね。あるお母様が何で子どもを預けなきゃいけないんだって、強気に不安で言ってしまったと思うんですが、帰ってきた時に子どもが笑顔で楽しかったって言ったそうです。そのお母様が子どもを成長させてくれてありがとうございましたって感謝をしてくれたそうです。自分が評価をされることは重要だなと私は感じました。

【榎平コーディネーター】

そうですね、新しい取り組みをすると、自信がないところに加えて批判がくると、処理が大変ですね。その中からいいことだとか、あるいはすべきことを汲み取って次に改善していくといった、そういうサイクルが出来てくるといいですね。ありがとうございました。清水さん、どうでしょうか。

【パネリスト 清水 氏】

先ほどから若い人のとてもいい意見がある中ですが、繰り返しやっていくことが重要ではないかなと思います。いわゆる自己流というものも考えたこともないし、私達が類は友を呼ぶという感じでいろんなイベントに声を掛けてきて、準備と称して「飲みニケーション」、打ち上げと称して「飲みニケーション」をしています。逆に飲むことを目的にイベントを続けているのかなと時々思いますけれども、それで次に繋がることもありますし、そういうことがあるといつの間にか自然に参加してくれる若い人もいたり、まず一番思っているのは見ることから参加してほしいと、そして面白そうと思ったら、まずお手伝いをお願いいたします。幸いにも消防団という縦社会の最後の砦がまだまだありますので、彼らに居場所ではなくて、活動の場を与えたいなと考えております。

【榎平コーディネーター】

ありがとうございます。私も猿橋の方々とシンポジウムをするにあたって「飲みニケーション」をさせてもらったんですが、非常に多様な経歴の方々がいらして、決して誰がいいとかではなくて、皆さんそれぞれがそれぞれの役割を果たしているというまさに適材適所ということを感じました。これは猿橋だけの話ではなくて、どの地域でもこれに熱心な人、これを得意な人といった、それぞれの適材適所があると思いますね。そのためにも、コミュニケーションは非常に大切で、いろんな方達に参加してもらおう場を作ることが大切だと思いますね。寺島さん、いかがですか。

【パネリスト 寺島 氏】

地域を変えていける価値ある存在ということで、今の若者は自分も含めて、失敗を恐れて自分から行動できない人が多いと思います。高田さんも先ほどお話していましたが、褒める、認める環境が必要だと思います。そのため、行動したいと思った人をどれだけサポートできるかが大切であると思っています。地域の中で何かをしたいという小さな一歩を支える環境をみんなで作ることで、自分は地域のために行動できるという確かな自信が創れると思います。小さなことを積み重ねれば、自分もやればできると考えることができ、それが地域を変えていくという大きなことを成し遂げるパワーに繋がると 생각합니다。私自身も大月エコの里で地域の方々と関わらせて頂いて、自分が地域を変えていく価値ある存在とまではいなくても、市役所職員として地域を変えたいという気持ちがあったので、周りから地域を支える環境が大事だと思います。

【榎平コーディネーター】

成功体験を積み重ねて、それを支えるサポート体制が大事だということですね。ぜひ、これから寺島さんが行うことに対して、皆さん、やりたいようにやらせて頂いてほしいなと思

います。今のテーマについてご発言ある方いらっしゃいますか。

【質問者 B 男性】

猿橋公民館の志村と申します。①の素敵なカッコイイ生き方をしている人が③の次世代を担う若者にどう関わっていくのか、ということですが、自分が若い頃をひょっと思い出して少し話したいと思えます。自分が若い時は、いろいろなことに関わった時に町の中にはごんじな人がいました。そういった人の後ろ姿を見ながら、嫌だなあ、あんな先輩になりたくないなあ、と思っていました。それは私だけではなく、仲間達も思っていたようです。だから、俺達の時代になったら一気に変えようじゃないかと言っていました。こぴっとやるべえよと、こんな風なことを相談した時期もありました。実は、そういうことがですね、もしかしたら次の代にもあったかもしれない。清水さんと私は年が十二くらい違いますが、清水さん達も私達の年寄の姿を見て思ったかもしれない。ごんじになりたくないなあと思ったかもしれない。あるいは清水さんの後輩の人達も思ってるかもしれない。実はこれって大事な



ことなのかもしれないと、私は思いました。昭和の人達が出てくることによって、時代に合った若い人達の考え方、こういうことによって新たな地域の進化が生まれてくるのではないかなあと、思いました。そんなことから私はこれから生きていく限りはごんじな年寄になりたい、それによって次の世代が育っていくのではないかなあと、想像ですよ、限定はできませんけども死ぬまでごんじでいたいなあと思いました。以上です。

【榎平コーディネーター】

すみません。「ごんじ」ってどういう意味ですか。

【質問者 B 男性】

「ごんじ」っていうのは頑固みたいな感じですかね。

【榎平コーディネーター】

あまり、先輩のことをカッコイイと思っていなかったんですね。ただし、愛憎という言葉がありますが、愛と憎しみは紙一重だということを考えると、いい風に思ってなくても、裏にああいうことが出来て羨ましいなという憧れがあると思いますね。しかし、それをそのまま引き継ぐのも癪に障ると、ですから自分達に合った、あるいは時代にあったものに変えていくという気持ちがあれば繋がっていかないと思います。新しいことをやりたい、あいつらと違ったことをやりたいという気持ちがないときっと出来ないでしょう。それは、いずれにしても地域に愛情がなければダメだと思いますね。ありがとうございます。

それでは最後にですね、次世代を越えて続けていくと様々な課題が出てくると思います。こういったことを整理して発表していく、そして交流していくといった機会をどう作っていくのかというテーマを最後、寺島さんからお聞きしたいと思えます。

【パネリスト 寺島 氏】

今日のこの場のような機会が多くあれば良いのですが、このような場を作ることはなかなか難しいと思います。しかし、自分の考えを持ち、伝達するには場所が必要になると思います。そのため、市の職員の立場から考えますと、まずその場を提供したり、既存のイベントに盛り込むことも必要だと考えています。例えば、かがり火祭りですとか、あじさい祭りですとか、そういった既にあるイベントの一演目として話す機会があってもいいのではないかと思います。以上です。

【槇平コーディネーター】

ありがとうございます。高田さん、どうですか。

【パネリスト 高田 氏】

私も今日の生涯学習推進大会のようなイベントを増やすしかないと思っているんですけど、大規模でなくてもいいと思うんですね。地域に密着して、誰でも参加できるような小さくてもいいので、そういうセミナーみたいな場を作って発表していけばいいなと思います。

【槇平コーディネーター】

はい、ありがとうございました。最後に、清水さんからどうでしょうか。

【パネリスト 清水 氏】

まず、最初に先ほどご発言頂いた志村さんは、決してごんじではございません。私達にとって非常にいい先輩で、私がここに座っているのも志村さんのようなご理解のある先輩がご指導してくれて、ここにいれると思っています。私達も二十代、三十代の頃、間違いなくありました。その時、確かにあいつらとか思っているところがありました。とにかく、若い人達の意見を聞く耳を持つことも大事なのかなと思っていて、聞く耳を持つ場所を作ることが必要だと思います。先ほど言いました「飲みニケーション」が分かり易いので勧めていきたいなと、思っております。意見の相違とかがあっても全然不思議ではないし、ただ、若い人達が言ったことを若い人達に任せっぱなしではなくて、お手伝いをしたり、また、私達ができないことを若い人達に手伝ってもらったり、とかしながら進めていく。発表、伝達するっていうことは私達の商売ではとても苦手なことで、人はまとまることはあっても言葉はまとめられないということで飲んだ席では特にまとめられないと思う、今日この頃でございます。なんだかんだ言って、猿橋の場合は粋な先輩達がいっぱいいて、言いたいことを言うてもらえる関係、言いたいことを言うことができる関係が猿橋にはあると思っています。

【槇平コーディネーター】

はい、ありがとうございました。今、四つのテーマについて、それぞれの立場から限られた時間の中でお話頂きました。最後にぜひ、皆さんから今のお話を聞いて、感想なり、あるいはもう少し聞きたいなあとというところをお聞きしていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【質問者 C 男性】

私は大月短大の存在を大月市民として誇りに思っています。と言いますのは、今、脳トレのつもりで聴講生として行っているんですが、短大の先生、学生は非常に熱心なんですね。

先ほど寺島さんがおっしゃったように、短期大学の中で編入率が全国的に見ても非常に優秀なんですね。大都市の大学で居眠りしている学生に比べれば、はるかに優秀な学生がいると思います。ある先生が教員として生活できるのは大月短大があるからです、大月短大が無くなったら生きていく道がなくなります、とおっしゃっていました。一生懸命教えている先生の姿を見たり、大月短大を卒業して、編入学して、大月に就職して戻って来てくれる学生がいることは非常にありがたい。逆に大月市を見捨てないで下さい。あと、市民相手のオープンキャンパスをしてほしいなと思います。木造の新しい校舎も行ってみないと素晴らしさが分からないですし、ほとんどの市民が分かっていないと思います。財政的には非常に大変でしょうけど、ぜひ今後も誇りを持って維持して頂きたいと思います。以上です。私は無職で賑岡在住でございます。

【榎平コーディネーター】

ありがとうございます。オープンキャンパスもぜひ、積極的に行っていきたいと思います。教員同志も研究を皆さんにお聞きになってもらう場を、短大を中心に作っていきたいと思います。その際は、ぜひご参加の方よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。あと、いかがでしょうか。

【質問者 D 男性】

大月市文化協会の小林と申します。出会いの場所ということで、文化協会には21の団体がございまして、その下に下部組織的な感じでサークル等も120くらいあります。絵を描いたり、ダンスをしたりなどいろいろな活動をしています。お年寄りには申し訳ございませんが、ぜひ入ってもらって、頭を使って、体を使って健康でコロっと逝けるように、そういう人生を送ってもらえるように私も頑張っております。ぜひ、出会いの場所として自分から積極的に入って頂きたいと思っています。本当は若い人達に入ってもらって賑やかになるのがいいんですけど、まずはお年寄りにもっと入って頂いて仲間、居場所を作ってもらいたいと思います。ぜひ、よろしくお願ひ致します。



【榎平コーディネーター】

そうですね。居場所っていうのは心の持ちようなんだろうね、あそこに行けばあの人達がいるとか話せる人達がいるというような人との関係なんだろうね。その他にはございませつか。

【質問者 E 男性】

私も大月エコの里で百姓をしていますので、今回お話してくれたことは嬉しく思います。今度、4月からはさくら祭りがあるということで、エコの里には七百本余りの桜があるんですけど、お客様が来ても恥ずかしくないようにしたいんですけど、実はあんまり管理が行き届いてなくて、今少しだけですが綺麗にしましたので、できれば大勢の方に来て頂ければありがたいです。意見ではなくて感想で申し訳ないです。

【榎平コーディネーター】

はい、ありがとうございます。我々も学生と一緒に千本桜の下草狩りをさせてもらいましたが、微力ですが、そういった形で私達もこれから関わらせて頂きたいと思います。その他いかがでしょうか。ぜひ、若い方にとっても今、目が合いましたが私のゼミ生がいるんですけど、よろしいでしょうかね。内輪で大変恐縮なんですけど、山下さん、感想を聞かせて下さい。

【質問者 F 女性】

大月短期大学榎平ゼミに所属しています、山下と申します。一言、私は今年、入学させて頂いて、とても綺麗な新校舎で今、勉強させて頂いております。それもこれも大月市の市民の方々のご協力やご理解のお陰だと思っていて、また、大月学入門も受講させて頂いて、エコの里で地域実習も参加させて頂いているんですけども、その時など大月市民の方々がいつも温かく学生を受け入れて下さっているのも本当に感謝しています。これからも、ぜひ、学生の方でも協力できることがあれば、どんどん声を掛けて頂きたいなと思っています。どうもありがとうございました。

【榎平コーディネーター】

はい、ありがとうございました。もうお時間も過ぎてしまっているので、まとめに入りたいと思います。



★ まとめ

【榎平コーディネーター】

以前、学生と話していて、こういうことがあってちょっとドキっとしたんですね。「大月の人ってキモイですよ。」って言われてドキっとしたんですね。どういう意味なのと思って、びっくりして聞き直したんです。どうも、よくよく聞くとその子は地方の大都市出身の女の子なんですけど、大月の居酒屋でアルバイトをされていて、いろんな人が気軽に声を掛けてくる、決してそれはいやらしいということではなく、すごく可愛がってくれるそうです。それがあまりに知らない他人からなので、ちょっとこうゾッとすることかな、表現悪いですけど、ただし、そういう気持ちで声を掛けていることは本人も分かっているそうなんです。ただ、表現があまりよくないことは教育的に直していきたいと思うんですけども。気軽に若い学生達に声を掛けて下さることは私達にとっても非常にありがたいことなので、先ほども大月短大を非常に愛してくださっているというご意見を頂きました。これからもそういった風に可愛がってもらえるような短大になっていきたい、そういう環境の中で学生達を教育していきたいと強く思っています。ぜひ、皆さんもですね、よりキモイ大月市になって頂ければ学生達もより大月市の良さが、寺島さんが感じたように思うのかなと思います。無理してまとめるつもりはございません。私が冒頭にお話しした、この地域を良くしたいという強い思いと、この場を含めたいろんな形での知識、そして、皆さんが帰ってからの行動、この三つが大月市をより良く魅力的な地域にしていくと思っております。ぜひ、皆様方、明日から地域の中で行動されて、そして、私も短大の中で立場もありますけれども、出来る限りの尽力をしていこうと、そして壇上に上がって頂いた皆様のご協力も力にしながらこれから頑張っていきたいと、そういった決意を込めて会を閉じさせて頂きたいと思っております。

最後に三人のパネリストの方々にもう一度、盛大な拍手をしていただきたいと終わりたいと思っております。どうもありがとうございました。



第 56 回大月市生涯学習推進大会 〈アンケート用紙〉

お忙しいところ、ご参加くださりましてありがとうございます。
今後の参考とさせていただきますので、以下の問いにお答え下さい。

◎ あなたご自身について教えてください。【該当するものに○印】

男・女 (10歳代～20歳代 30歳代～40歳代 50歳代～60歳代 70歳以上)

1) ご職業はどれに当てはまりますか？

ア. 自営業 イ. 勤め(全日) ウ. 勤め(パート・臨時) エ. 学生
オ. 専業主婦 カ. 無職 キ. その他()

2) 今回の大会を何で知りましたか？

ア. チラシ イ. 知人・友人からの案内 ウ. 市広報 エ. 学校からの案内
オ. 公民館からの案内 カ. 所属団体からの案内 キ. その他()

I 大会に参加した動機について教えてください。

- ① 発表内容に関心があるから
- ② 取り組んでいる課題に直接的に役立ちそうだから
- ③ 仕事や地域活動の参考になる情報が得られそうだから
- ④ 生涯学習全般に興味があるから
- ⑤ コーディネーター・パネリストに関心があるから
- ⑥ 公民館や学校等から案内があったから
- ⑦ その他()

II 全体構成や日時設定などはいかがでしたか？【該当するものに○印】

- ① ちょうど良かった
- ② 開会行事が長すぎる
- ③ シンポジウムが短すぎる
- ④ シンポジウムが長すぎる
- ⑤ その他()

III 今回のシンポジウムは、全体としていかがでしたか？【該当するものに○印】

- ① とても良かった
- ② よかった
- ③ どちらともいえない
- ④ 不満だった
- ⑤ とても不満だった

(上記を選んだ理由：)

● ご自由にお書き下さい。(感想又は、今後の大会で採りあげてほしい課題等)

ご協力ありがとうございました。

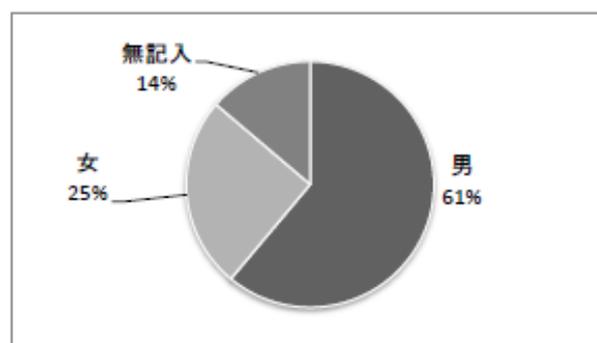
第56回大月市生涯学習推進大会 アンケート結果

アンケート件数:131
アンケート回収率:46%

◎ あなた自身について教えてください。

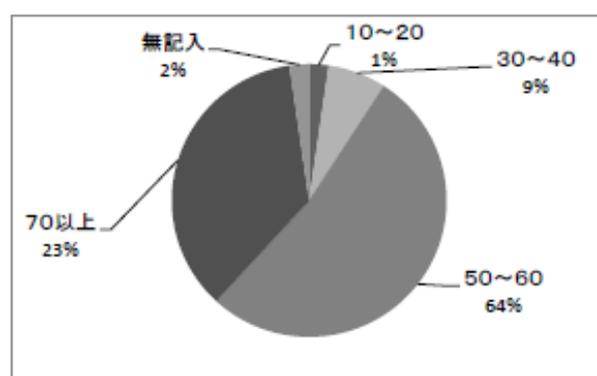
(性別)

男	80
女	33
無記入	18



(年代)

10歳代～20歳代	3
30歳代～40歳代	9
50歳代～60歳代	69
70歳以上	47
無記入	3



1) ご職業はどれに当てはまりますか？

ア	自営業	13
イ	勤め(全日)	21
ウ	勤め(パート・臨時)	25
エ	学生	4
オ	専業主婦	13
カ	無職	50
キ	その他	5
	無記入	0

■1) その他に当てはまり、記入された内容
保育士、アルバイト、短大非常勤講師

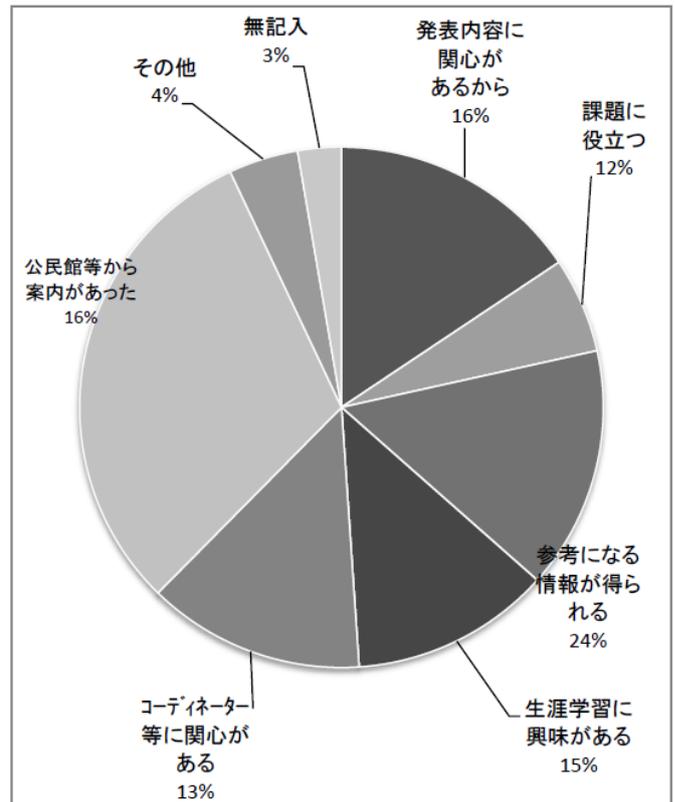
2) 今回の大会を何で知りましたか？

ア	チラシ	12
イ	知人・友人からの案内	9
ウ	市広報	14
エ	学校からの案内	12
オ	公民館からの案内	48
カ	所属団体からの案内	40
キ	その他	6
	無記入	2
	二つ回答	12

■2) その他に当てはまり、記入された内容
教育委員会、市役所、図書館の掲示

I 大会に参加した動機を教えてください。【複数回答可】

①	発表内容に関心があるから	29
②	取り組んでいる課題に直接的に役立ちそうだから	11
③	仕事や地域活動の参考になる情報が得られそうだから	28
④	生涯学習全般に興味があるから	23
⑤	コーディネーター・パネリストに関心があるから	25
⑥	公民館や学校等から案内があったから	57
⑦	その他	8
	無記入	5
	二つ以上回答	55

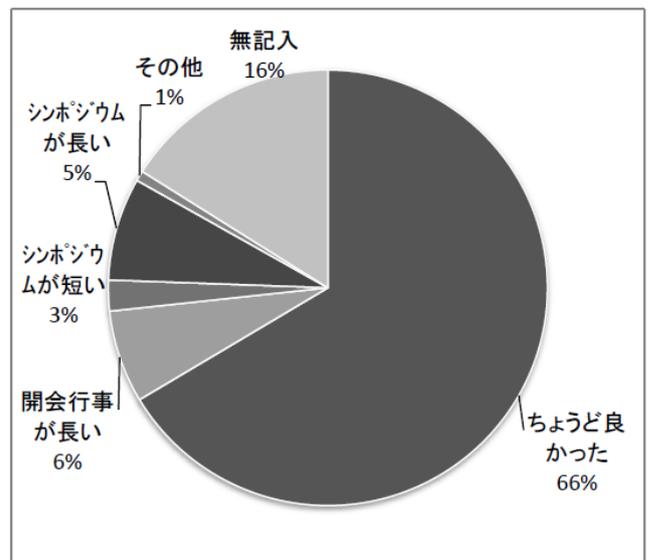


■その他に当てはまり、記入された内容

- ・ 体育協会から案内があったから
- ・ 所属団体が地元で活躍しているから
- ・ 動員されたから
- ・ 猿橋小学校のアトラクションがあるから
- ・ パネリストの短大生が教え子だから

II 全体構成や日時設定について【複数回答可】

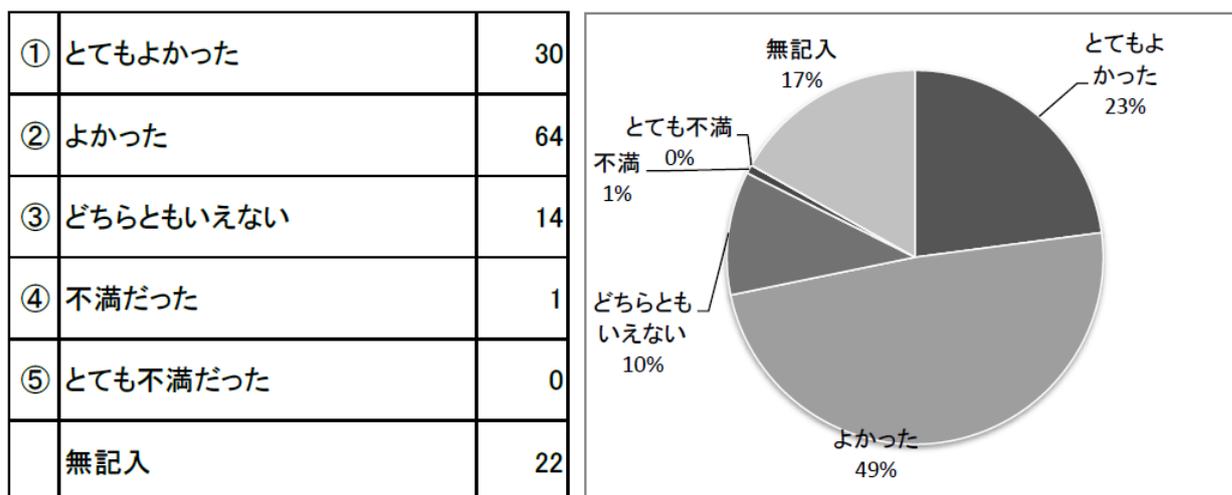
①	ちょうど良かった	87
②	開会行事が長すぎる	9
③	シンポジウムが短すぎる	3
④	シンポジウムが長すぎる	10
⑤	その他	1
	無記入	21
	二つ以上回答	0



■その他に記入された内容

- ・ アトラクションが良かった。
- ・ パネリストは2名でもいいのでは。

Ⅲ 今回の大会は、全体としていかがでしたか？



■ 上記を選んだ理由

・ よく考えている。研究している。
・ 様々な人々の視点から人の繋がりに関する話を聞いてとても良かった。
・ まず行動することが大事。
・ 若い人の意見がしっかりしていた。
・ 猿橋の素晴らしい地域力、若者の地域に思う強い未来志向の考えが参考になりました。また、短大の存在、大月の中での活用・繋がりをどう活かしていくか考えていく必要があると思った。
・ アトラクションの猿橋小の琴、素敵でした。地域の昔の歌を復活し、演奏するという素晴らしい取り組みです。琴クラブの活動が地域を繋げている成果だとも思いました。学校の活動に敬意を表します。
・ 発表の内容が具体的で分かり易かった。
・ パネリストの発表がとても素晴らしかった。寺島さんの具体的な提案がとても心に響きました。高田さんの公民館に関する話も目からウロコで興味深かったです。
・ 年々、内容が深まっていると思います。
・ 大月市の足りない事、良いところが知れました。
・ 短大生が大月市民との繋がりを持ちたいという意志を持っていることが分かったこと。
・ お琴クラブの素敵な演奏から、3名のパネリストの皆様の貴重なお話、全体を通してとても密度の濃い内容でした。
・ パネリストの意見、考え方が良い。
・ 他県からの短大生の言葉に感心いたしました。勇気付けられました。
・ 公民館の在り方が少し理解できた。
・ 素晴らしい！ぜひ短大生に大きく期待します。今までの中で(4回目)今回は特に良かったです。
・ 若い人の意見、感覚が表現されていたこと。
・ 短大の卒業生、現役の学生のパネリスト二人の意見が良かったです。

<ul style="list-style-type: none"> 私も他県より大月市に住んでいる者として地域の人々との関わりはイベント等の参加により深まったと思う。
<ul style="list-style-type: none"> 初めての参加なので今までとの比較は出来ないが、また次の機会があったら参加してみたい。
<ul style="list-style-type: none"> 今、何をしなければならないかが見えなかった。
<ul style="list-style-type: none"> 猿橋保勝会のように地元で行っている地域活性化を図る運動が分かり易いのではないか？
<ul style="list-style-type: none"> 立場の違う人たちの意見が聞けて良かった。ただ時間的には少し長かった。
<ul style="list-style-type: none"> 地域での活動に活かしたい。
<ul style="list-style-type: none"> 大月市の公民館活動は停滞している。
<ul style="list-style-type: none"> 猿橋小のお琴クラブの演奏は良かったですが、もう2曲くらい聴かせていただきたいかった。(岩殿城歌、大月市民歌、大好き大月)
<ul style="list-style-type: none"> 私は63歳ですが、これからもいろんな活動に参加したいと思っている。
<ul style="list-style-type: none"> もう少し具体的な提案がほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 考えるだけではダメ。行動しないと何も出来ない。行動をする方法を考える事を思った。年をとっていても行える。
<ul style="list-style-type: none"> せっかくの学習のチャンスに市民参加が少ない。
<ul style="list-style-type: none"> 猿橋の事がよく分かって良かった。
<ul style="list-style-type: none"> 市外から見た大月の意見が聞けた。
<ul style="list-style-type: none"> 具体的な事柄に乏しかった。経験の中から現実社会に貢献できるように期待したい。
<ul style="list-style-type: none"> 思いの強さと行動へのエネルギー、それはどこから生まれてくるのか、多くの事を学び考えたひとときでした。
<ul style="list-style-type: none"> 大学への橋渡しをしてくださる事に期待を持ちました。
<ul style="list-style-type: none"> パネリストのような若い力を感じる方や、地域で明るく元気に活躍する方の意見を聞くことができ良かったです。
<ul style="list-style-type: none"> 猿橋は良かった。
<ul style="list-style-type: none"> 行動に移す大切さを痛感。
<ul style="list-style-type: none"> 大月を真剣に考えてくれている。
<ul style="list-style-type: none"> 公民館活動の参考にしたい。
<ul style="list-style-type: none"> 理念は理解できたが、具体策が見えてこなかった。
<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化のポイントを自分の地域にいかにより具体的に活かしていくか、問題意識を持ってました。
<ul style="list-style-type: none"> 自分達が思っている以上に他の市民が気づいている。
<ul style="list-style-type: none"> 大月市以外の出身のパネリストの方からの大月市の魅力を改めて知ることができ、これからの地域の活性化に活かしていきたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> 公民館活動の重要性を再認識するよい機会になりました。
<ul style="list-style-type: none"> 良い意見が出て本当に良かったです。有意義な大会だと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> 人と人との繋がりが大事だと思いました。

<ul style="list-style-type: none"> ・ パネリストの方の発表に同感することが多かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 笹子の山奥は子どもが周りにいません。猿橋が羨ましいです。65歳、楽しく生きていきます。

■ 自由記入欄(感想または、今後採りあげてほしい課題等)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 短大のL号館でご飯会ができたかなと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元就職できることが何より若者増加だと思う。地域の行事に参加することも大事ですね。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度も市内に居住していれば町おこしの鈴木さん、林さんの活動報告。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 皆さんの熱い想いをどう市内に広げていくか、うまく広がってってくれるとよいと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市職員、短大生が出場したのは良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 寺島さんのように大月に魅力を感じてくれる学生を育て、近い将来大月市民となってくれるような循環が生まれたら活気が出ると思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化で昔のような活動も難しく、その中で何が出来るか考える機会になったと思います。郷土料理を持ち寄って皆で会食するのは素晴らしいと感じました。良い交流の場になると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 素晴らしい時間をどうもありがとうございました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 猿橋小のアトラクションが良かったです。揃っていてきれいでした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 猿橋は毎月、行事があり大変だと思った。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 30～50代を呼び込む何か良い方法を考えていこう。大月市を盛り上げよう。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者の話が良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者を動員でなくても増やせる工夫が必要ではないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の住民が問題意識を持ち、その課題を他地域の人や若者に参画して一緒になって取り組むバランスが大切だと思いました。そんな意味で寺島さんがとても心強く感じました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 短大卒業生が市職員となり、大月の為に役立ちたいとの意欲に感動しました。短大の存在価値は大きい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口増、市の活性化、災害時の対応、短大の学生との繋がりが必要と思われる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明が読み上げるような一本調子なので、もう少し言葉の強弱や自分の口で考えながらの方が話に引込まれたのではないかと思います。質問も事前に分かっているようで、自分の意見を読んでいるだけでももう少し口語的な言葉の答えが聞きたかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分は、今住んでいる地域の人間ではない。会社人間を卒業すると、地域に生きがいを感じない。空白の人間の扱いをどうすべきか？
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人暮らしの老人対策(生活)。なぜ大学を出て大月に戻ってこないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少に対する取り組み方。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 若年層が参加できるような仕組みを作ると良いと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場の設営。テーマ等をもっと大きく書いた方が良い(全体が暗い)。司会者も頑張っていたが、開会式の終了とかけじめが必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月から全国に発信、世界に発信は素晴らしい意気込みであり、情熱あふれるお話でした。大月をもっともっと売り出す努力を市民一人一人が前向きに考え行動できるような環境を是非、共につくりだしていきたいものです。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 野生動物が多く、それを保護しても活用できるものが少ない。動物を有効に使う方法を考えたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災行政無線の使用範囲について、他県などの事例調査を実施できないか。「地域づくり」には市民が情報を共有することが必要不可欠です。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の活性化を図るべく若者の発表意見等を述べる大会にしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ アトラクションは地域に伝えられている歌を取扱い演奏してくらたこと、嬉しく思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市役所職員寺島さん、素晴らしい若手職員だと思いました。自分の意見をしっかり持ち熱く語る、尊敬します。頑張ってください。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 思考から行動へ。今、関わっている仕事場、学校、地域で出来る事を提案すべきだと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 素晴らしいシンポジウムでした。発表の準備もよくなされ、学ぶことの多い大会でした。構成も良く、パネリストも素晴らしいと思いました。元気をもらえました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月に移住して良かったという人の体験談。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 他県、地域の方々が大月市を私たち以上に思っていたいただき感謝しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 働き方改革が進展すれば、自由な時間が生じると思う。この時間の一部を地域活動に使えればいいと思うのだが・・・。
<ul style="list-style-type: none"> ・ アトラクション終了後、子どもたちがすぐ解散になるため、その後の発表等を見ることができませんでした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 付属高校のイメージがまだ残っているので、市民が短大と距離を置いている。可哀そうなのは学生は高校のイメージを知らない。年寄のもってる高校と短大のイメージは全く違う。はっきりさせるべし。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの市民が諦めている地元について、パネリストの報告を聞き、今からでも何とかなるといふ感心を受けた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 優れたコーディネーターでした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 短大関係者は非常勤講師を含め、全員案内をお願いします。
<ul style="list-style-type: none"> ・ アトラクション→素晴らしかったです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ パネリスト→清水さんの猿橋の魅力が伝わりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習に関する特別な思いもありますが、学習教育法年齢に制限なく学ぶことが特に大切であると思います。少子高齢化社会を皆様で努力をすべきである。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月市の住民は保守的でなかなか声があげられない！
<ul style="list-style-type: none"> ・ 猿橋小のお琴、とても良かったです。次回もやってほしいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 琴の演奏が良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ シンポジウムにも興味ありますが、時間の都合でアトラクションのみで帰らせていただきます。

第56回大月市生涯学習推進大会の様子



シンポジウム「見つめよう！地域の力」～粋な心で豊かな暮らしをパートⅢ～

【市民会館1階 大ホール】

開会式



開会
(林 社教委副会長)



主催者あいさつ
(小泉教育長)



励ましのことば
(石井市長)



来賓祝辞
(鈴木副議長)



アトラクション：猿橋小学校音楽お琴クラブによる琴の演奏



コーディネーター 榎平 龍宏 先生



猿橋保勝会 小俣・清水 様



市役所秘書広報課 寺島 様



パネリストや会場との対話



大月短大1年生・榎平ゼミ 高田 様



会場との対話

【1階展示室】



公民館や社会教育施設の活動展示

【1階ロビー】



大月大豆倶楽部さん
就労支援事業所めばえさん
による出店販売



大会終了後、都留高校書道部による書道パフォーマンス

